

令和7年度
京都市立紫明小学校

研究発表会



研究主題

生き生きと学び、自己の生き方をさぐる子の育成

～つながり・さぐり・つくる～



令和7年12月5日（金）

京都市立紫明小学校

目 次

はじめに

学校教育目標 学校経営

I 研究の概要 ----- 研究 1 ～ 1 0

II 学年部の取組

低学年部の取組 ----- 低 1 ～ 1 2

中学年部の取組 ----- 中 1 ～ 8

高学年部の取組 ----- 高 1 ～ 1 0

育成部の取組 ----- 育 1 ～ 1 1

おわりに

研究同人

はじめに

京都市立紫明小学校

校長 石田 淳

ご多用の中、本校の研究発表会にご参加いただき、誠に感謝申し上げます。

本校では、学校教育目標を「ともに ～つながろう 創り上げよう～」とし、子どもたちはもちろん、教職員、保護者、地域の方など、学校に関わる全ての皆様と「ともに」と進んでいきたいという思いを込めて、日々の教育活動に取り組んでいます。

さらに本校では、今年度から生き方探究教育（学習指導要領では「キャリア教育」という呼称で記載がありますが、京都市では「生き方探究教育」としています）を充実させようと取組を進めています。学習指導要領では、キャリア教育について以下のように記述されています。

総則（第1章 総則 第4 児童の発達への支援）

児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科等の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること。

「学校での学びを通して身に付けた力は、将来多くの人とともに生きていったり、仲間と一緒に仕事をしたりするときに使われるのだな。だから、学習も活動も行事も自分のことも

大切にしよう」と、子どもたち自身が思いながら、学校での学びを積み重ねてほしいと願っています。

そのため本校では、今年度から「大人になってもつかう力」を掲げました。「人を大切にする」「自分を大切にする」「めあてに向かう」「よりよく生きる」の4つです。学習のめあてに向かって解決しようと頑張ったり、目標達成にむけて活動や取組を進めたりすることを通して、「大人になってもつかう力」が少しずつ積み重なり、身に付いていくように思います。

こうした生き方探究教育の充実を目指して、研究では「生き生きと学び、自己の生き方をさぐる子の育成～つながり・さぐり・つくる～」を主題に掲げ、研究教科を生活科・総合的な学習の時間として実践研究を進めてまいりました。

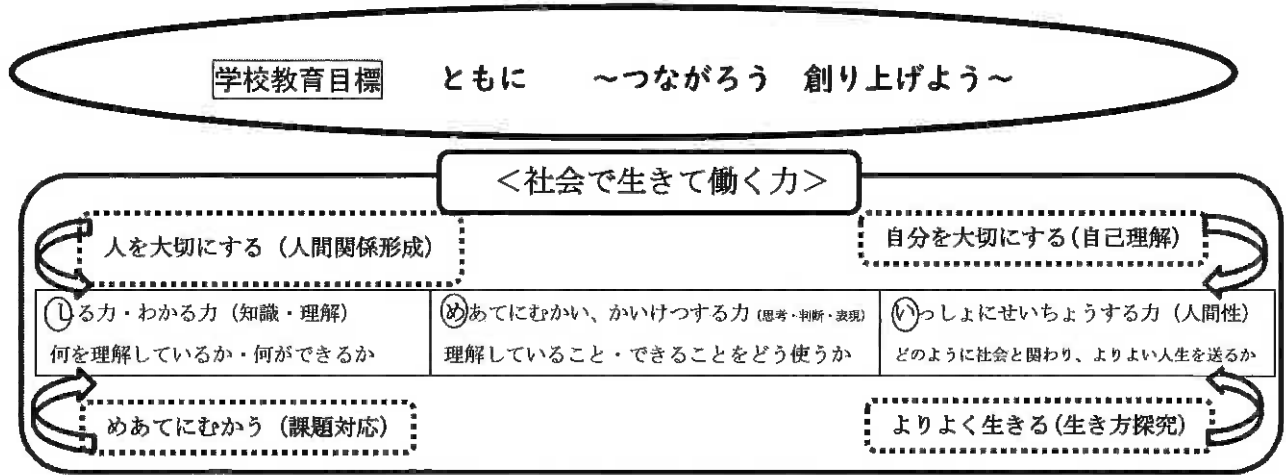
「授業を通して、社会的・職業的自立に向けての資質・能力を身に付けていく」とはどういうことなのか、教職員も迷い、悩みながらも、ともに学び合い、ひとつひとつ理解を深めていきました。学校での学びが子どもたちの将来にどのように役立つのか、すぐに結果や答えが出ないからこそ、研究の取組に信念をもって進めました。授業を通して、子どもたちの思いや力が具現化すること切に願っています。

まだまだ、緒に就いたばかりの研究で、拙い取組でございますが、ご参加いただいた皆様からご指導・ご助言を賜りますとともに、子どもたちの未来のための教育について、一緒に考えることができれば幸いに存じます。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、一昨年度よりご指導いただいております、京都女子大学准教授・齊藤和貴様をはじめ、御所南小学校校長・鈴木登美代様、京都御池中学校教頭鍵村佳江様、京都市教育委員会総合育成支援課・初田由利子主事様には、多くのご支援、ご指導をいただきました。併せて、本研究に関わってくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

令和7年度 校内研究の概要

1. 学校教育目標



2. 学校教育目標で目指す資質・能力の具体

学校教育目標の目指す資質能力における具体的な児童の姿

①しる力・わかる力 (知識・理解) 何を理解しているか 何ができるか	・物事の概念的なものについて理解できる。 ・既習事項や生活体験と結びつけて構造化できる。 ・現状を理解し、より良い自分のよりよい生き方に生かそうとすることができる。 ・物事を俯瞰的に見て、見通しを持つことができる
②めあてに向かい、かいけつする力 (思考・判断・表現) 理解していること できることをどう使うか	・自分の考えと同じところやズレに気づくことができる。 ・実生活の中から問いを見出し、自らの課題が設定できる。 ・自分事として課題を解決しようとすることができる。 ・問題の解決に向けて自分なりの考えが持てる。 ・論理的に説明し、批判的思考も上手く相手に伝えることができる。 ・整理されていない情報から、必要なものを自分自身で取捨・選択できる。
③いっしょにがんばる力 (人間力) どのように社会と関わり、 よりよい人生を送るか	・友達の考えを柔軟に受け止め、友達と協働したり、創造したりしている。 ・自分や他者の弱さ・失敗を受け入れている。 ・少数派の意見にも誠実に耳を傾けている。 ・対立を恐れず本音で話せる。 ・地域の人や専門家との交流を通して、地域のよさを考え、社会の一員として参画しようとするすることができる。

学校教育目標で目指す子どもの具体像

「 他者の考えを柔軟に受け止め、社会や他者との関わりの中で様々な問題を解決し、よりよい自分の生き方の創造に向かう子ども 」

3. 研究テーマ

生き生きと学び、自己の生き方をさぐる子の育成

～ つながり・さぐり・つくる ～

4. 研究テーマについて

本校では、令和4年度から研究テーマを「“対話”を通して、共に学び合う子の育成」として、対話を通して共に学ぶ子の育成に取り組んできた。令和6年度からは、児童がこれまで培ってきた対話のスキルを基盤にして、「生き生きと主体的に学ぶ子の育成」を目指し、総合的な学習の時間と生活科を中心に、子どもの主体的な学びの育成に向けて取り組んでいる。児童は探究的な見方、考え方を働かせ、自らの課題の設定とその解決をする営みを数多く経験する中で、他者と協働し、生き生きとした主体的に学ぶ姿を表出させることが増えた。昨年の研究の振り返りからも、アンケート結果により、少なからず一定の研究成果が出たものと考えている。

今年度は、これまでに培ってきた「対話的」「主体的」に学ぶ姿を「生き生きと学ぶ」姿とし、さらにはその学びや資質能力が児童に何をもたらすかを追究していきたい。どのようにすれば児童が普段の学びを「自己のよりよい生き方」につなげ、現在及び未来をよりよいものにしていくことができるか。生き方探究教育の視点を持ち、指導者が児童と関わることで、対話的、主体的な力を発揮しながら、探究的な学びを通して、他者と「つながり」、解決方法を追究し「さぐり」、自己のよりよい生き方を創造「つくる」する児童の育成を考えている。

しかし、児童の多くは、様々な学校での学びと自己の将来とのつながりを十分に見通していない。そこで今年度は、特別活動を要として、総合的な学習の時間と生活科で探探究的な見方・考え方に重点を置き、学校での学びと自分の将来や自己の実現とのつながりが感得できるよう、生き方探究教育の充実を図っていききたい。このようなことから以下のように仮説を立て研究を進めていくことにした。

5. 研究仮説

主体的・対話的・探究的に学習を進めることで、生き生きと「自己のよりよい生き方」を他者と協働して探り・創造していくことができる子の資質・能力を育成していけるのではないだろうか

6. 生き方探究教育について

(小学校) 第1章総則 第4児童の発達への支援 1 児童の発達を支える指導の充実

(3) 児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的に向け必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。

京都市では、キャリア教育を「生き方探究教育」として、以下のように定義している。

生き方探究教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分の生き方を実現していくことができるようにする教育である。

京都市では生き方探究教育3つの指針として、「体験を伴うプログラム」「生き方探究教育の目標を意識した教科等の学習の推進」「社会生活を送る上で必要な規範意識等の育成」示している。また、つきたい力を以下のように4領域8能力としている。

共 生 と 自 立	人とともに社会を生きる力 (人間関係形成・社会形成能力)	意見の違いや立場の違いを理解し柔軟に対応する力 自分の考えを正確に伝える力 地域や家庭での役割を果たし、共に生きる力 社会に参画し、貢献する力
	自分を知り、律する力 (自己理解・自己管理能力)	自分を理解し可能性を信じて主体的に行動する力 やりたいこと、できること、しなければならないことを理解する力 自分の考えを絶対視せず、感情をコントロールする力 現状に満足せず、達成感を次のステップの原動力として向上しようとする力
	課題を見つけ、解決する力 (課題対応能力)	様々なことに好奇心をもち視野を広げる力 身の回りや社会の事象から課題を見つける力 課題を分析し、適切な計画を立てて処理し、解決する力 よく考え意思決定をする力
	夢や希望をつくりあげる力 (キャリアプランニング能力)	学校での学びと社会のつながりを意識し意欲的に学ぼうとする力 グローバルな視野をもち、自分の将来を世界と結びつける力 働くことの意義を理解する力 生活設計をする力

京都市生き方探究スタンダードより

キャリア教育はこれまでにない新しい教育内容をするというわけではなく、これまで学校教育で行ってきた教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直すことが重要である。そうすることで、それぞれの活動の関連が明確になり、各教科の学習や学校生活の多様な機会を持つことの意義もより明確になる。

今年度は、「何をしていてもキャリア教育」という考えから脱却し、「児童のよりよい生き方を実現する」などの抽象度が高い概念のままの状態から、基礎的・凡庸的能力とされている「4領域8能力」の育成を意識することで、児童のキャリア発達に係る見取図にし、子ども達にどのような能力・態度が身についているのか見るための基準にしていきたい。そのために、カリキュラム・マネジメントと生き方探究パスポートを有効活用することは必須である。これにより、様々な教育活動や教科学習を横断的に組み立て、個々の課題を追究、評価できるものであると考えている。

児童が自らの未来を自らの手で切り開いていくために必要な能力を身に付ける機会が各教科

学習、学校生活の中には数多くあることを児童自身が実感するために、先ず指導者が学校で行う様々な教育活動を生き方探究の視点でとらえ直し、断片的にあるものを計画的、系統的に位置づける意識の構築を図っていききたい。

小学校教育における生き方探究教育は、すぐに成果が出るものばかりとは限らない。生き方探究教育を通して育成すべき能力は、12年間の教育の中で進めていくものであり、学校と社会を円滑につなぐために望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育である。成果だけにとらわれず、児童の将来を見据えて、児童一人ひとりが将来自分らしい花を咲かすためにどのような種を植えていけばよいのか、そのイメージをもって生き方探究教育を推進していききたい。

7. 総合的な学習の時間について

総合的な学習の時間の目標は以下のように示されている。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

目標を実現するにふさわしい探究課題

- ・横断的・総合的な課題（現代的な諸課題に応じた課題）
- ・地域や学校の特色に応じた課題
- ・児童の興味・関心に基づく課題（学習指導要領解説参考）

< 京都市スタンダード具体例 >

3年 地域（公園・人・歴史）

4年 ものづくり・安全・環境・自然（カイク）・福祉（高齢者・障害者）・情報

5年 キャリア・食育・伝統・動物愛護

6年 資源・エネルギー・国際理解 など（京都市スタンダード参考）

探究課題は、子ども地域の実態を踏まえ、「どのような児童にしたいのかという担任の願い」と、「これを学びたいという児童の願い（主体性を重んじて）」が一致するものから探究課題を決めていくのがよいと考えられる。

学習過程

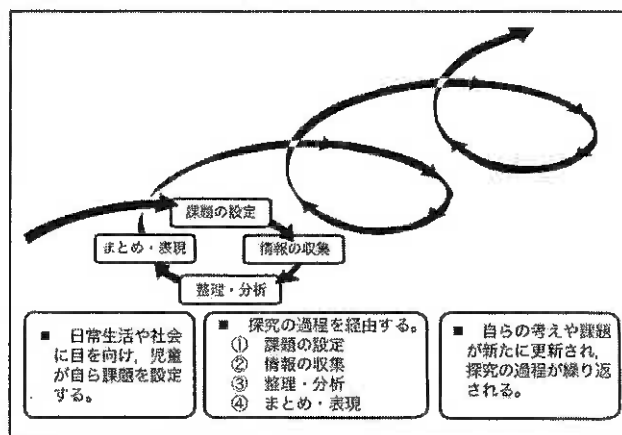
発見課題の設定 → 追究課題の設定 → 提案課題の設定 → 熟成課題の設定 → 表現課題の設定

8. 探究的な見方・考え方について

探究的な見方・考え方を冒頭に置いたのは、探究的な学習の重要性に鑑み、探究的な学習の課題を総合的な学習の時間の本質と捉え、中心に据えることを意味している。総合的な学習の時間における学習では、問題解決的な活動が発展的に右図のように繰り返されていく。課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現といった具合である。

これを探究的な学習と呼び、平成20年「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」において、「探究的な学習における児童の学習の姿」として1連の学習過程を示した。

探究的な学習における児童の学習の姿



※(図) 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

このように、各教科における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会、実生活の課題を探究し、自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間の特質に応じた見方・考え方を探究的な見方・考え方と呼ぶ。

9. 主体的・対話的な学び（生き生きとした姿）

○本研究の主体的・対話的な姿の共通イメージ

- ・探りたい、解決したい、伝えたいという思いが表出している。
- ・ふりかえり文の量や質に変化が生まれている。
- ・次々に自らの課題を設定しようとしている。
- ・自分事としてめあてを立て解決までの見通しを持とうとしている。
- ・予想や疑問を持つなど、次事の授業に向けて意欲を高くしている。
- ・自己の課題について粘り強く取り組んでいる。
- ・友達の影響や評価を得て、自らの考えを柔軟に変容させている。
- ・友達の影響と比較して自分の考えを構築している。

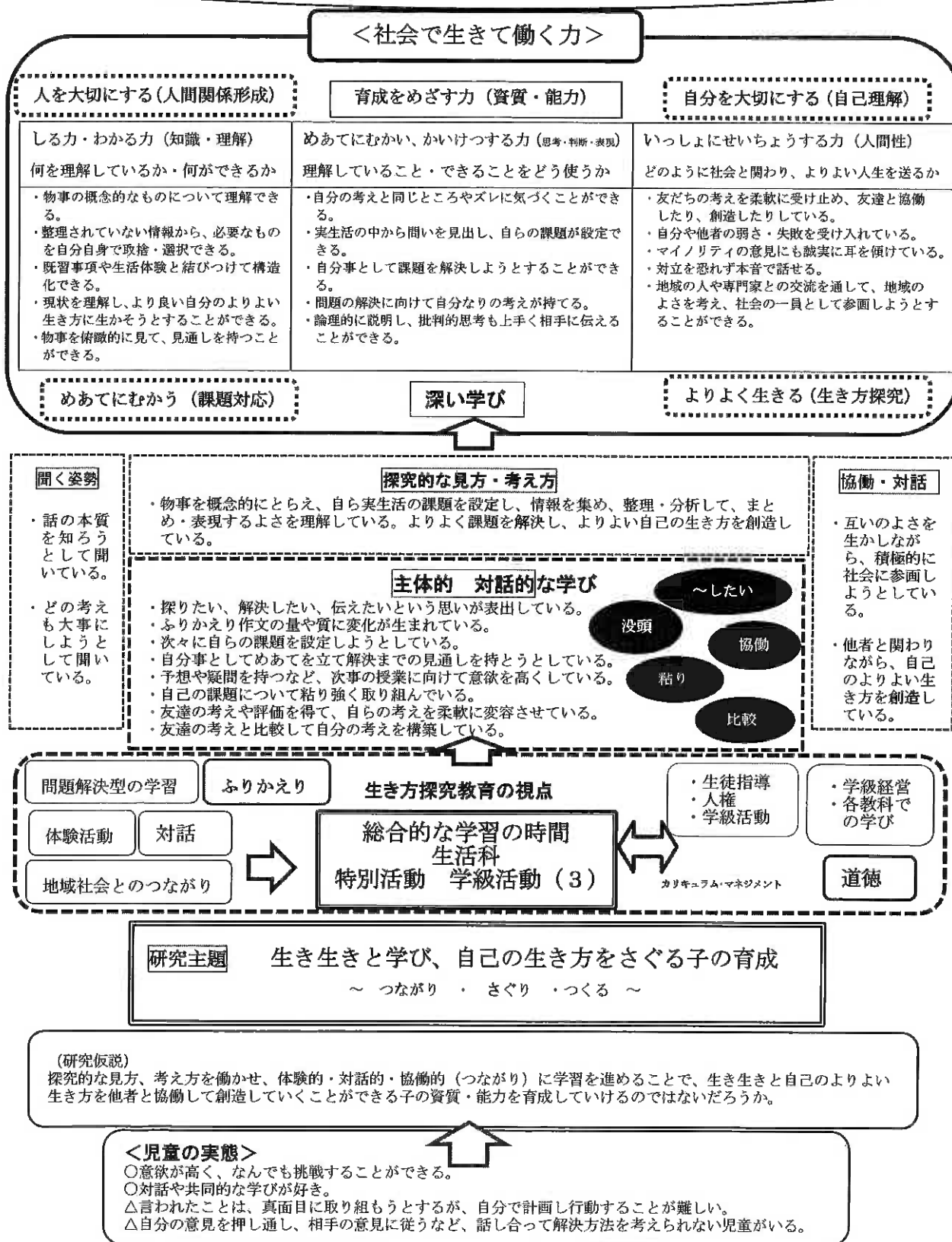
キーワード



各学年の発達段階に応じて育成する資質・能力をより具体化していく。

10. 研究の全容

学校教育目標 ともに ～つながろう 創り上げよう～



1.1. 研究の重点

(1) 探究的な活動の推進

①総合的な学習・生活科の単元構築

○総合的な学習の時間

年間2単元を見通し、その内1単元は地域や学校の特色に応じた課題重点を置いた単元、もう1単元は子どもの興味関心に基づく課題を設定し、それに応じて単元の構築を図る。

学年	単元構想（テーマ）		
	対象	地域や学校の特色に応じた課題 （系統を待たせて取り組む課題）	子どもの興味関心に基づく課題 （例）
3年	地域	防災	地域経済 町づくり
4年	地域	福祉	環境 ものづくり
5年	地域・日本	仕事	伝統文化 食 情報
6年	日本・世界	国際理解	キャリア 生命

※総合で1時間～2時間程度取り、児童がどのようなことに興味を持ち、何について探り、くわしく調べたいという思いを持っているのか。児童との対話をしながら、4月中に目途が立つようにする

○生活科

探究的な学習になるように、自分自身の生活や成長に関する内容についての単元など、他教科の学習や特別活動と横断的に取り組めるよう、年間の指導計画を立てる。

自分自身の生活や成長に関する内容

1年「みんなのこにこ大さくせん」

2年「ひろがれわたし」 など

探究的な活動を単元構想の際には、成功の積み上げではなく、困難・混沌の突破の意識を持つようにしたい。（上手くいかない場面があるべき。）

②体験的・協働的な学びを積極的に取り入れる

地域人材や専門家、保護者と積極的に関わり学びを進めていく。その際には、地域人材や専門家、保護者に学習のねらいや児童に付けさせていきたい力など、指導者としての意図を伝えて進めていくようにする。

③学習のめあてとふりかえりの充実

その学習のめあてや、つけたい資質能力・態度は、指導者のみならず、児童が意識できるようにする。また、ふりかえりについては、新たな自分との出会い、すなわち「自分の成

長・生き方の探究」につながるようにしたい。また、他者からの評価も積極的に取り入れ、ふりかえってきた思考が視覚的にわかり、残るようにする。

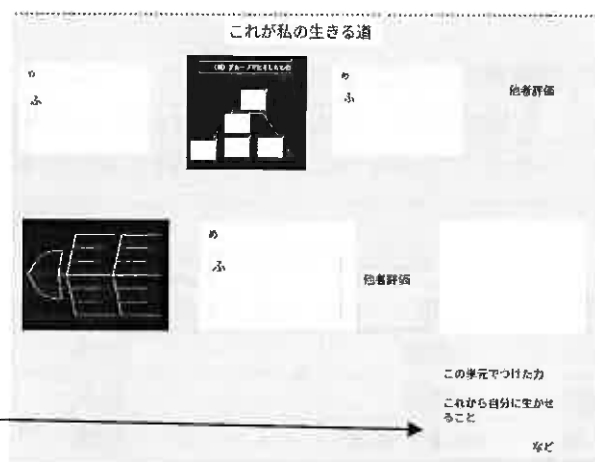
総合・生活科

自己評価 と 他者評価 スパイラル

新たな自分との出会い＝成長・生き方の探究

↑
自己評価・他者評価

単元の最後に「自己のよりよい生き方」について考えたことが自然と表出するよう単元構想と授業の展開を意識する。



ふりかえりの視点

- ① 本時のめあてに対してできるようになったこと。
- ② 活動を通して明らかになったこと。
- ③ 工夫して考えて取り組んでみたこと。
- ④ 友だちの考え、表現のよさ
- ⑤ 学びの中でさらに考え、表現してみたいと感じたこと。

達成
真実や価値の発見
学習過程の評価
他者情報の活用
探究の意欲

本時を振り返る

考えの再構築

次時にのぞむ

創造的・探究的

参考文献『アクティブラーニング時代の「振り返り指導」』秋田喜代美

(2) 生き方探究教育の推進

①カリキュラム・マネジメントの充実

カリキュラム・マネジメントの視点で、教育活動の質を高めていく営みは、児童の実態を把握し、一人ひとりのキャリア発達を願い、キャリア教育を構想し、推進していく営みと同じ。

○年間指導計画の中にキャリア教育の重点を設定

- ・特別活動を要として、総合的な学習の時間・生活科に重点を置いて、各教科と横断的に連携した育成することを目指す。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
総合的な学習の時間	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
生活科	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
国語	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
算数	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
理科	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
社会	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
英語	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
音楽	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。
体育	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。	キャリア教育の基礎となる基礎知識・基礎技能の習得を目的とした学習活動を行う。

②生き方探究パスポートの充実

子どもが学校での学びと自己の将来とのつながりを見通す。

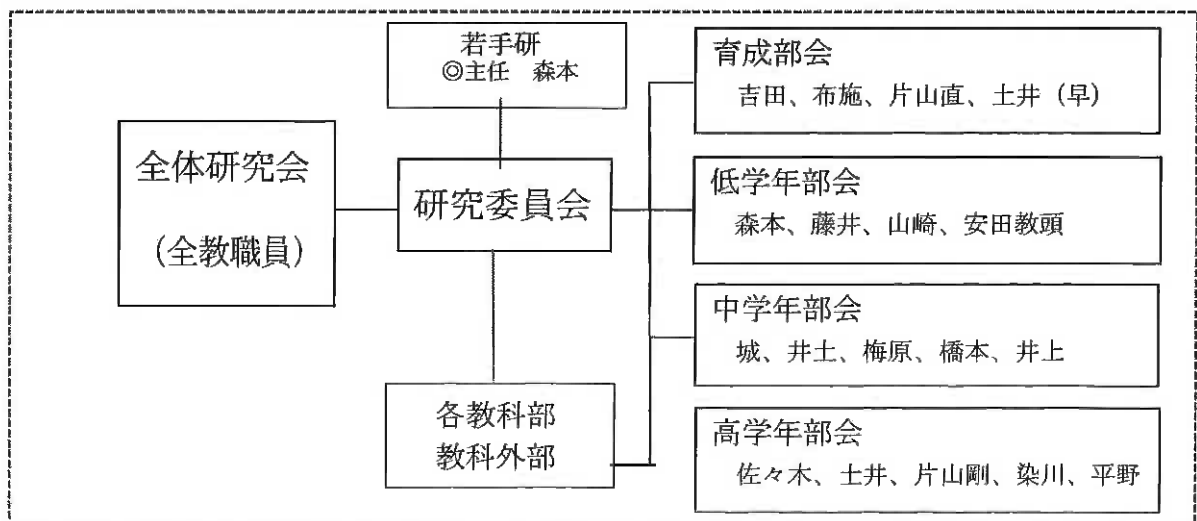
- ・学級活動（3）「なりたい自分」を考える学習

キャリアパスポートへの記入は、ワークシートにある内容をただ記入するのではなく、これまでの自分を振り返るなどして、1年間の見通しと自分の課題解決に向けて意欲を高めていく時間をとることが重要である。また、友達と交流するなどして、一人一人のキャリア形成と自己実現に向け、経験や学びについて話し合い、記録・蓄積することで可視化し、よりよいキャリア形成につなげていける特別活動を展開したい。その際、なりたい自分の設定は1年後に自己評価できるものにする。

1 2. 授業研究の取組

(1) 研究組織図

※学校長は、どの部会にも所属する。



(2) 研究授業の進め方

- ① 授業デザイン検討（研究主任、研究部、低・中・高部会）
- ② 事前授業 事後検討（管理職、教務部、研究主任、研究部、低・中・高部会）
指導案検討（管理職、教務部、研究主任、研究部、低・中・高部会）

- ③ 本時（全体）

- ④ 事後研修会（全体＋指導助言） ※③～④は指導助言の先生も参加して下さる予定です。

授業デザイン検討部会→事前授業・事後検討→指導案検討→本時→事後研究会

(3) 研究授業について

事前授業では、検討している授業のねらいや展開を簡単に記載できるシートを使うようにする。指導案にすると、準備してきたものに対して変更する場合は意見が言にくかったり、授業者が思いをもって考えてきたものに対して大きく軌道修正は授業者として大きな負担となったりするからである。

(4) 事後検討会について

ねらった資質・能力の本質に向かっていたのかの視点で話し合う。「はじめは～だった A 君が B さんの発言をきっかけに意見を変え始めたね」「あの C さんの意見の意味を D 君なりに説明してくれた場面で多くの子の表情が変わったね」など、目標に迫る場面や授業の流れが変化した潮目における子どもの姿を話し合う。なぜその子がそう言ったのか、もしくはその子が言わなければどうなっていたのかなど、児童の固有名、具体的な行動・発言が飛び交う事後検討会を開きたい。

(5) 取組教科等

育成部：生活単元

低学年部：生活科

中学年部：総合的な学習の時間

高学年部：総合的な学習の時間

(6) 若手研の取り組みについて

自主研修会として「若手研」を設定する。採用5年目まで若手教員を中心に参加できる教職員で開く。内容として、教科を問わず、研究テーマ『生き生きと学び、自己の課題を追究する児童の育成』を目指した授業を見合うことで、日々の授業改善や専門性の向上を図る。

低学年部会



低学年部の取組

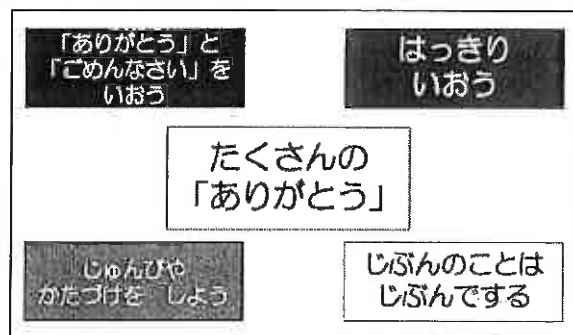
目指す子どもの姿

1年 読んだり聞いたりする中で、自分の考えをもち、自分自身や自分の生活について考え、表現しようとしている。

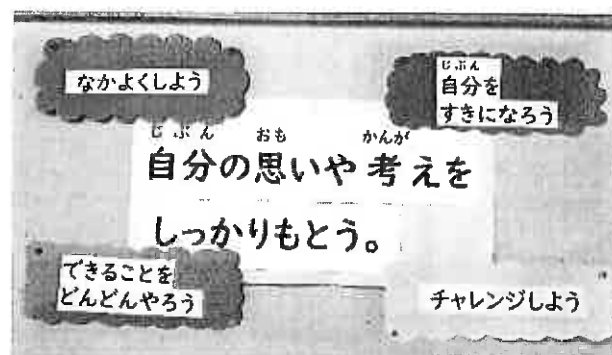
2年 周りと関わりながら、自分の思いをもち、自分自身や自分の生活について考え、表現しようとしている。

1. 子どもと共有した生き方探求教育の視点

1年



2年



2. 児童の実態と、「目指す子どもの姿」設定の理由

1年生は、ひらがな、カタカナや漢字を学習する中で、少しずつ定着から活用する楽しさに、児童の興味関心が移行してきている。そうした状況を踏まえて、読んだり聞いたりする中で、自分の考えをもつことを「目指す子どもの姿」として設定した。明確な意見がもてなくても、友だちと会話をする中で、気が付くことは多い。こうした気付きをもとに、自分自身の生活について考える楽しさを知ってほしい。2年生は、指示されたことには一定の取り組みが見られるが、自発的に新しいことへ挑戦する姿は多くは見られない。一方、他者の喜びに対して児童自身が喜びを感じる様子があり、自ら進んでお手伝いをする姿も多く見られる。これらの実態を踏まえ、自分の気付きや考えを自信をもって発信し、多様な場面に広げていくことを目標として「目指す子どもの姿」を設定した。

3. 具体的な取り組み

1. 体験に基づいた交流

植物の栽培や動物の飼育など、児童にとって具体的で身近な体験を重視してきた。こうした体験を積み重ねた後の会話では、「どのようなことが同じで、何が違うか」や「友だちの話を聞いて、初めて知ったこと」などについて交流する時間を意図的にとった。こうした交流を通して、考えが同じ児童と会話が弾み、また、自分が知らないことを伝えてくれる友だちには「それは、何？」と質問することで、会話の幅が広がっていた。コロナ禍を経た現時点だからこそ、友だちとの会話の楽しさを知り、楽しみながら自立し生活を豊かにしていこうと考える児童の育成に取り組んでいる。

2. 主体的に学ぶための単元構築

2年生のまちたんけんでは、「紫明博士になろう」というめあてを設定し、児童の思いである「地域を案内できるくらい紫明について詳しく知りたい」を大切に、子どもたちの希望に沿うようにインタビュー先のお店や施設を決めた。児童は主体的に地域について調べ、地域のものや人の思い等についてたくさんのすてきを見つけてきた。これから「伝えたい」思いを持ち、交流を行う予定である。

生活科学学習指導案

指導者 京都市立紫明小学校 森本 博道

1 日 時 令和7年12月5日(金) 第5校時(13:50~14:35)

2 学年・組 第1学年1組(28名)

3 単元名 みんなの にこにこ 大きくせん

【内容(2) 家庭と生活】

4 単元の目標

家の人の「にこにこ」について考える活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かるとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付け、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとすることができるようにする。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準 ままとりごとの 内容の	家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることがわかって いる。 【内容(2) 家庭と生活】	家庭生活に関わる活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。 【内容(2) 家庭と生活】	家庭生活に関わる活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。 【内容(2) 家庭と生活】
単元の評価規準	家の人の「にこにこ」について考える活動を通して、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かるとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	家の人の「にこにこ」について考える活動を通して、家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えている。	家の人の「にこにこ」について考える活動を通して、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとしている。
小単元ごとの評価規準	導入 ①自分や身近な人の「にこにこ」に気づいている。	①学校で見つけた「にこにこ」について、友だちと交流している。	①学校で見つけた「にこにこ」の人や場所、出来事について進んで友だちに伝えようとする。
	展開1 ②家の人の「にこにこ」には、自分がかかわっているものがあることに気づいている。	②家の人の「にこにこ」について考えたり、見つけた「にこにこ」や思ったことをカードに書いたりしている。	②家の人のいろいろな「にこにこ」について、具体的に思いを起こしたり、家の人に話を聞いたりして、積極的に「にこにこ」を見つけようとしている。
	展開2 ③家の人の「にこにこ」が増えることで、家庭生活をよりよくできることに気づいている。	③家の人の「にこにこ」について表現したり伝え合ったりする交流を通して、「にこにこ」を増やす計画を立て、実行するとともに、その結果を表現したり、伝え合ったりしている。	③家の人をよく見たり、インタビューしたりして、自分の行ったことについて、伝えたいことを明確にし、もっと「にこにこ」を増やしたいという思いを持っている。

	展開 3	④家の人を「にこにこ」にするためには、自分の生活のリズムを整えたり、病気の予防に努めたりすることも重要であることに気づいている。		
	展開 4			
	振り返り	⑤これまでの活動について振り返り、自分には家族を「にこにこ」にするためにできることがたくさんあることに気づいている。家庭生活は、家族が互いに支え合っていることや自分の成長やよさに気づいている。基本的な生活習慣や技能を身につけている。	④これまでの活動について振り返り、もっとやってみたいことなどを表現したり、伝え合ったりしている。	④家庭生活について自ら進んで関心をもち、これからも積極的に家の人「にこにこ」を増やしていこうとしている。規則正しく健康に気をつけて生活をよりよいものにしたりしようとしている。

6 単元について

【学習対象や学習材について】

本単元では、家の人「にこにこ」について考える活動を通して、家庭生活を支えている人のことや、家庭内で自分ができることなどについて考え、家庭での役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりすることができるようになることをねらいとしている。

本単元においては、身近な生活に関わる見方・考え方を生かして学習活動を展開し、一人一人の資質・能力の育成を目指していく。それは、家庭における自分の生活や役割に目を向け対象を捉え、家族の一員としてよりよい生活をしようという思いや願いをもって行動することである。そのために、自分や身近な人々がどんなときに笑顔になるかを探る活動から始め、人の喜ぶ理由についてつかむ。それをもとに「にこにこ大作戦」を計画し、家の人を喜ばせる作戦を考え、試したり、工夫したりしながら継続的に活動を行う。その中で、家庭生活での役割や、家の人「にこにこ」の喜びには自分が関わっていることに気づけるようにしたい。最後の振り返りでは、家庭のよさを実感するとともに身近な人々に感謝し、今後も継続してよりよい生活が送れるようにしていきたい。

【主体的な学びに向けて】

○思いや願いが膨らむ学習を創る

プリントやノートなどの配布物を配ることを好む児童が多い。また、日常生活で起こった事実を教師に伝えたいという児童も多い。しかしながら、そうした思いは、児童と教師との1対1の関係に留まる傾向が見られる。つまり、まだ周囲のことに目を向けたり意識したりして生活することは難しい児童が多いという実態である。

そこで、導入で、職員室前の教職員紹介の掲示を見ながら、教職員の「にこにこ（笑顔）」を、児童全員で確認する。その上で、掲示ではなく、実際の学校の中にある「にこにこ（笑顔）」を探し、自分の周囲にいる様々な人たちに目を向けられるようにする。児童にとっても身近でわかりやすい「にこにこ」に注目することで、毎日の学校生活で、友人や教職員など多くの人々と関わりな

がら生活していることを、児童自らが気づけるようにしたい。その上で、学校だけではなく、家庭にもにこにこがあるだろうという予想のもと、家庭でのにこにこにも目を向け、どんなときに家族がにこにこになるのかについて、関心を持つことができるように授業を進めていきたい。

展開では、家族のにこにこを見つけない、増やしたいという思いを持った上で、家族のにこにこについてより深く調べるために、家族の様子をよく見たり、インタビューしたりする。インタビューを通して、家族のにこにこには自分自身が深く関わっているのだということに気づくとともに、自分たちの手でにこにこを増やしていきたいという思いが持てるようにする。家族のにこにこを増やすにはどうすればよいか、自分のにこにこ大作戦を考える。そして、自分が決めた作戦に取り組みながら、作戦実行の様子や家族のにこにこについて振り返ることで、このまま作戦で良いのか、あるいは変更するのかを、児童が考えられる機会を設ける。それが、中間報告の時間である。この時間には、自分の作戦実行の様子を報告したり、友だちの作戦実行の様子を聞いたりすることで、自身の作戦実行の内容や質を向上していけるようにする。こうした活動を通して、次の3つの資質能力を身につけることを目標とする。⑦家の家族のことや自分でできることなどについて考えることができる、⑧家で生活は、家族みんなで助け合っていることがわかる、⑨自分から進んで手伝いをしたり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとすることができる。

振り返りでは、作戦を通して家族がどのように感じたのかを、児童にコメントしてもらおう。家族からの言葉を受けて自分の行動が家族のにこにこにつながったということを実感し、自己有用感や自尊感情を高められるようにしたい。最後に、にこにこ大作戦をして感じたことや作戦をした時の思いなどを家族への手紙を書くことで、今後も続けていきたいという意欲が持てるようにする。

○学びを実生活につなぐ（生き方探究教育の目標との関連について）

教科を通した生き方探究教育とは、扱う単元や題材などに生き方探究教育的な何かを新たに付け加えることではない。あくまでねらうのは、教科の目標である。ここでは、生活科の目標である「自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を育成する」をねらっていく。当該単元の内容そのもの、あるいは、その単元のねらいを達成するための授業展開（指導手法）の中に、生き方探究教育としての価値が潜んでいる場合に、その価値を見出し、それを意識して指導することが、教科を通した生き方探究教育の姿である。

この単元の目標の達成を通して、意識する生き方探究教育の視点は、4つある。それは、生き方探究教育の目標でもある。①人を大切にする（人間関係形成）、②自分を大切にする（自己理解）、③めあてに向かう（課題対応）、④よりよく生きる（キャリアプランニング）。以下、1つずつ検討する。

①人を大切にする（人間関係形成）

人間関係形成とは、他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・協働してものごとに取り組むことである。本単元では、児童が自分以外の友人、教職員や家族などの活動を知ること、自分にできることないかと見つけ、PDCAサイクルを回すことで、みんながにこにこになる活動を継続して取り組んでいく。

②自分を大切にする（自己理解）

自己理解とは、児童本人が、様々な活動を通して、好きなことや得意なことを見つけることを通

して自分を知ることである。本単元では、家族のにこにこを増やすために、児童は、どのような活動なら家族に貢献できるかについて探すことになる。こうした活動は、児童が自分の新たな価値に気づくことにつながり、自分を知ることができる。何でもやってみたい時期、好奇心旺盛な時期に、様々な体験活動の中で、できるようになったことを増やし、自信を持たせて活動する楽しさを味わわせるとともに、自分の気持ちや意見を伝えることの大切さを教えたい。

③めあてに向かう（課題対応）

課題対応とは、自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み交流することである。本単元では、家族のにこにこを増やすために、児童は自分なりの「にこにこ大作戦」を考える。考える中で、友だちや教師の言葉を参考にすることはあるだろう。しかしながら、最終的には、児童本人が選択、決定し実行する。そして、「にこにこ大作戦」を実行後に、交流する時間を意図的に設けることで、ヒントをつかんだ子どもたちは、計画内容をよりよいものにしようと考え、再び取り組もうとする。活動に当たっては、すべて教師がおぜん立てするのではなく、計画や準備の段階から児童に関わらせ、失敗や反省を次の活動に活かす経験も必要になる。また、みんなで話し合っ解決することの楽しさを味わわせることで、「折り合いをつける」話し合いへとつなげていくこともできる。

④キャリアプランニング

キャリアプランニングとは、将来の「理想の自分」や「キャリアビジョン」を実現するために、必要な経験やスキルを身につけるための具体的な行動計画を立てることである。本単元では、「にこにこ大作戦」という具体的な行動計画を立てる。そして、家族のにこにこを増やすために、児童が自ら考えた計画を実行する。こうして家庭で仕事を分担することを通して、自分が役割を果たすことの価値を知り、自己有用感を味わうことができる。それは、自分をかけがえのないものとして大切にしていこうとする気持ちを育み、自分自身の成長に気づき、自信を深めていくことにもつながっていく。

8 本時について (8 / 12 時間目)

(1) 目標

「にこにこ大作戦」を振り返り、その時のお家の人の様子や自分の満足度、気づいたことなどを表現したり、伝え合ったりすることによって、さらに家族のにこにこを増やしていこうと意欲を高めている。

(2) 展開

○学習活動 ・ 児童の反応	◇支援 *留意点 (生)生き方探究教育の視点
○本時のめあてを確かめる。	
おうちの人は、どれぐらいにこにこしたのか。	◇本時の流れを確かめることで、見通しをもって学習できるようにする。
○一対一で、作戦をしたときのお家の人の様子や自分が気がついたことについて、伝え合う。 ・○○作戦を考えていました。なかなか頑張っているけど、気がついてくれないときもあったけれど、気づいた時に「ありがとうございます」と言ってくれて嬉しかったです。 ・お母さんに、にこにこ大作戦でお手伝いをしました。喜んでくれる時もあったけど、喜んでくれない時もあったので、どうしてかなと思いました。 ・○○作戦が成功して、お家の人にとっても喜んでもらったので、もっとにこにこする作戦をやりたいと思いました。 ・○○作戦をしました。時々作戦をすることを忘れてしまうことがあったので、あまりお家の人をにこにこさせることができませんでした。 ○全体で、作戦をしたときのお家の人の様子や自分が気づいたことについて伝え合う。 ・とっても喜んでもらおうと○○をしたのに、あまり喜んでもらえなかったことがあったのでは、なぜだろうと思いました。 ・○○さんの作戦やお家の人が喜んでくれたことを聞いて、私も○○さんの作戦をためしてみたいと思いました。 ・作戦をしたけど、大変で毎日続けることができませんでした。だから、自分で続けられる作戦をするのが大事だと思います。 ・喜んでもらえるときと喜んでくれない時があるので、なぜかなと思いました。	*友だちに伝えたい作戦の様子を、カードを使って交流することで、全体交流の際に、気づきの視点を広げることができるようにする。 *一対一で、作戦の様子を、満足度を交えて伝え合うことで、自分の作戦をふり振り返り、次への意欲や思いをもったりすることができるようにする。 *児童の発表したことを板書する際、満足度に分けて掲示することで、にこにこ満足してもらうためのヒントに気がつくようにする。 *教師がコーディネートしながら全体交流を進めていくことで、子どもたちの発表を関連付けながら、自分の課題に気づけたり、課題の解決方法に気づいたりできるようにし、作戦を考えて行いたい次回への意欲を高めたりすることができる。

○本時の学習を振り返り、これからの活動の見通しを持つ。

- ・違う作戦を考えて成功できるように頑張ろう。
- ・作戦をよりよくして、お家の人をいっぱいにくにこさせたい。
- ・自分と友だちの作戦を合体させて作戦を考えてやろう。
- ・作戦を考えるヒントを、お家の人にインタビューをしてから決めよう。

*作戦を考え直したい、もっとにくにこしてもらえる作戦を行いたいという思いを持つことができるようにする。

*「板書の中で、一番心に残っていることは、何ですか」と問うことで、振り返りの対象をしぼりやすくする。

⑤

にくにこ大作戦を実行した時のお家の人の様子や自分が気づいたことを交流することで、自分が家族の一員として役割を果たしたことを自覚したり、喜んだりして、これからも家族のにくにこを増やすための意欲を高めている。

「もっとにくにこ大きくせん」をしよう。

(3) 評価

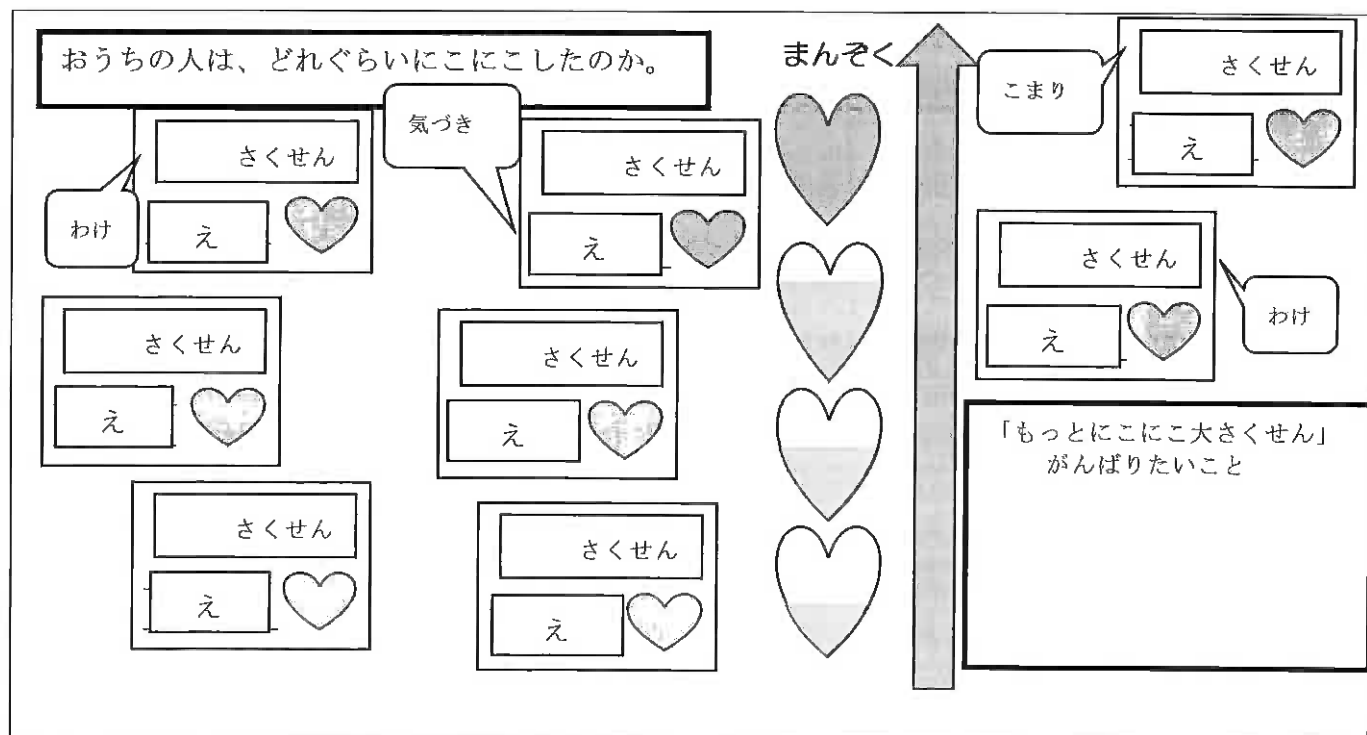
【主③】

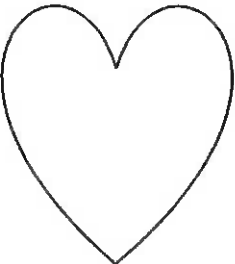
家の人をよく見たり、インタビューしたりして、自分の行ったことについて、伝えたいことを明確にし、もっと「にくにこ」を増やしたいという思いを持っている。

「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言」

- ・お家の人が、にくにこできそうなことを考えてやってみたけれど、もっとお家の人が、にくにこできる作戦はないかな。
- ・友だちの発表を聞いて、新しい作戦を思いついた。今から、新しい作戦を実行するのが楽しみだな。

(4) 板書計画



さくせん	
え	

学習カードには、3つのことを書くようにする。

1 作戦の名前、2 作戦内容の絵、3 作戦を実行した満足度
以下に詳細を書く。

1 作戦の名前

子どもたちが、カードを見た時に、どのような作戦かを考える足掛かりとする。

2 作戦内容の絵

作戦内容を、文字で書くことも考えられる。しかしながら、本学級の子どもは、語彙力にバラツキがあり、文字で書いてあることから、具体的な場面を想像するのが難しい子が8名いる。こうした児童への支援としても、作戦内容を絵で描くことを考えた。図画工作科の鑑賞の時間に、ヒントを得た。子どもたちは、絵を見て感想を述べたり、質問したりする中で、「ああ、そういうことか」、「わかったわ」などと、話す場面が見られた。絵を見て会話することで、場面のイメージを膨らませやすい子が多いという学級の実態を踏まえ、本授業では文ではなく、絵で表現することとした。

3 作戦を実行した満足度

ハートに色を塗る割合で、満足度を表現できるようにした。視覚的に明らかになれば、友だちが計画した作戦を実行し、その友だち自身は、どのように考えているのかを捉えやすいと考えたからである。作戦実行の様子を、友だちと会話する中で、同じ意見なのか、違う意見なのかも、あらかじめ検討しやすいのではないかと考えている。

学びの過程	学習の流れ
「にこにこ」をかんじる	導入 みんなが にこにこするのは、どんな とき (1H) 自分や周りの人がにこにこする時は、どんな時か 考えよう 家の人がにこにこする時はどんな時か 考えよう いろいろな人が「にこにこ」している いえの人がにこにこするのは どんなときか さがしてみたい
「にこにこ」をやる	活動1 いえの 人の ようすを 見てみよう (3H) じっくり見よう インタビューしよう 家の人が どんなときに どうして「にこにこ」になるのか分かったよ 見つけた「にこにこ」をカードにかこう おばあちゃんは、ぼくがお風呂掃除をしているとにこにこするよ ご飯を残さず食べるとお父さんが好き嫌いしないで食べたってにこにこしたよ 見つけた「にこにこ」を伝え合おう お姉ちゃんと二人で洗濯物をたたむとお母さんが「助かるよ、ありがとう」って言ってにこにこしたよ わたしが家族を「にこにこ」にすることもできるんだね わたしが「にこにこ」のとき まわりの人も「にこにこ」になるよ みんなの「にこにこ」を ふやしたいな。どうしたら にこにこが ふえるかな
「にこにこ」をつくる	活動2 やってみよう、にこにこ 大さくせん (5H) にこにこ大さくせんの計画を立ててやってみよう 家の仕事をしよう 家族といろいろ話そう 家族のために〇〇しよう 自分のことは自分でしよう 家の人のにこにこのために 自分にできることは何かな 家族みんなの洗濯物をたためばうまくいきそう おじいちゃんと、たくさんお話するのがいいかな なかなかできないけど、朝一人で起きるよ みんなの話を聞いてたら、もっと作戦を続けたくなくてきたよ にこにこ大さくせん中間報告会をしよう 作戦を さらによいものにして いえの人をもっとにこにこにするよ もっとにこにこ大さくせんをやってみよう さらに上手にして、もっとにこにこにするぞ にこにこ大さくせん報告書をかこう 作戦変更したけど、今回もうまくいくようにがんばるぞ
「にこにこ」を続ける	活動3 にこにこが いっぱい (1H) にこにこ大さくせん報告会をして 発見したことを伝え合おう 今度は、家族のみんなの分の洗濯物をたたんだら、「それいいね！」ってさらににこにこしてくれた 1週間、自分で朝起きられたんだ。お母さんが「すごい！」って大喜びで、ぼくも嬉しくてにこにこになったよ 家族が「にこにこ」になると、わたしもにこにこになるよ 家族とわたしの「にこにこ」が繋がっているんだね。にこにこがたくさんでうれしいな。 振り返り さくせんは せいこうしたかな (1H) 作戦 大せいこう！ 「にこにこ宣言」を書こう 家の人や友達も先生もみんながよろこんでくれてうれしかったです。これからも自分でできることをふやしていくね これからしていききたいことを伝え合おう これからも、学校からかえってきたら、すぐに宿題をしよう。学校であったことも、お母さんにたくさん話そう。 これからも「にこにこ」を増やしていきたいな 共通体験 選択体験 表現 交流 児童の言葉 次の活動につながる児童のおもい

導入	1	○家の人がどんなときに「にこにこ」しているか、家の人「にこにこ」を見つける。 ◆家の人どんなときに「にこにこ」しているのかな。 ぼくの家には「にこにこ」がたくさんあるよ。お母さんは料理をしているときに「にこにこ」していたよ。 ○1日の生活を振り返り、家の人「にこにこ」しているときを、自分との関わりの中から探す。 ◆1日の中で家の人「にこにこ」しているときを思い出そう。 テレビを見ているとき、「にこにこ」していたよ。弟は遊んでいるときに「にこにこ」していたよ。家には「にこにこ」がたくさんあるのかな。「にこにこ」を探してみたいな。	☞普段から朝の会などを通して、家の人と楽しく過ごしたことなど、後に「にこにこ」につながりそうなことをとりあげておく。 ☞家の人どんなときに「にこにこ」しているかを思い起こしたり、友達の話から想像したりする。家での活動に繋げるようにする。	思① 態①
活動 1	2 3 4	○家の人どんなときに「にこにこ」しているのか調べる。 【家庭での活動（配当外）】 ◆家族の「にこにこ」を探そう。 お父さんが私とお話をしていて「にこにこ」していたよ。私がピアノの練習をしているときにお母さんが「にこにこ」していたよ。妹と一緒に遊んでいるときに妹が「にこにこ」していたよ。 ○見付けた家庭の「にこにこ」について伝え合う。 ◆見付けた家族の「にこにこ」を交流しよう。 お母さんがごはんを作っているときに「にこにこ」していたよ。おじいちゃんはどうして、わたしが学校から帰ってきたときに「にこにこ」していたのかな。「にこにこ」の理由が知りたいな。 ○家族にインタビューし、聞いたことをカードに書く。 ◆家族の「にこにこ」の理由を調べよう。 私が楽しそうに話をしていたから「にこにこ」していたそうです。お母さんはみんながおいしそうにごはんを食べていたから「にこにこ」していたそうです。 ○家庭で調べた家の人「にこにこ」について、分かったことや思ったことを伝え合う。 ◆「にこにこ」について調べて分かったことを伝え合おう。 お父さんが「にこにこ」になるのは、私が学校のことをいっぱい話したときだよ。私と家族の「にこにこ」って繋がっているんだね。「にこにこ」を増やしたいな。もっとみんなに「にこにこ」してほしいな。	☞見付けた「にこにこ」をメモするカードを用意する。 ！学年だより等で、単元の趣旨や協力をお願いを家庭に伝えておく。 ！さまざまな家庭環境に配慮して、家庭で活動する期間は長めに設定する。 ☞自分と関わりのある「にこにこ」に気付けるよう、「にこにこ」の理由を調べることができるようになる。 ！教科書ではGIGA 端末で家の様子を撮影しているが、家の中や家庭生活の様子が分かるような写真や動画を撮影することは、プライバシー等に配慮し、この単元では極力避けるようにする。 ICT インタビューカードは GIGA 端末を使用すると共有する。	態① 思② 思③ 思② 知①
活動 2	5 6	○「にこにこ」を増やすための計画を立て、カードに書く。 ◆「にこにこ」を増やすための計画を立てよう。 学校であったことをお父さんに毎日お話ししてみよう。家族のためにお風呂掃除をするよ。毎日言われなくてもピアノの練習をするよ。洗濯物をたたむことができるようになりたいな。 ○計画を家庭で実行する。 【家庭での活動（配当外）】 ◆「にこにこ大さくせん」を実行しよう。 食器を洗っているときに服がびしょびしょになってしまうな。どうすれば上手くできるかな。洗濯物がだんだん上手にたためるようになってきたよ。明日こそ一人で起きるぞ。	☞家族の誰のための作戦なのかを考えて、計画できるようにする。 ☞新しいことに挑戦するだけではなく、これまでしてきたことを続けるという視点ももつようにする。 ！様々な家庭環境に配慮して、家庭で活動する期間は長めに設定する。 ！活動が終わったときに、保護者から確実に全員分の手紙等コメントがもらえるようにあらかじめ依頼しておく。	思④ 知② 態②

	7	○「にこにこ大さくせん」をよりよいものにするために、作戦の様子を伝え合う。 ◆「にこにこ大さくせん」の様子を話し合おう。 お風呂掃除が上手くできなくて、困っています。どうすれば上手くできるか教えてほしいな。洗濯物をたたんでいたら、お母さんに上手だねってほめてもらえたよ。一人で起きられるようになったなんてすごいな。みんな作戦をがんばっているんだね。みんなの作戦を聞いていたらもっと作戦を続けていきたくなってきたよ。	△感想をクラスで共有し、「うまくできなかった。」「困ってしまった。」などの課題が出たら、どうすればうまくできるかをみんなで考える。 他「ふたりのゆうた」「ルンルンルン」「おふろばそうじ」（道徳）	思③
	8 本 時	○話し合ったことをもとに「もっとにこにこ大さくせん」を計画し、カードに書く ◆もっと「にこにこ」を増やすための計画を立てよう。 次はうまくできそうだから、食器洗い作戦をもう一度やってみよう。お話作戦は成功だったから、他の作戦もやってみたいな。お風呂掃除作戦を今度こそ成功させるぞ。次はお手伝いじゃなく、自分のことは自分でできるようにがんばろう。 ○計画を家庭で実行する。 【家庭での活動（配当外）】 ◆「もっとにこにこ大さくせん」を実行しよう。		知② 態②
	9	○「もっとにこにこ大さくせん」を振り返り、カードに書く。 ◆「もっとにこにこ大さくせん」の報告書を書こう。 前はうまくいかなかったけど、今度は5日間とも自分で起きられて、すごいねと言ってもらえました。作戦を変えて、食器洗いをやってみたら思ったより難しかったけど、うまくできるようになってうれしかったです。家族も私もニコニコになって作戦は大成功でした。		
活動 3	10	○実行して気付いたことや分かったことを伝え合う。 ◆「もっとにこにこ大さくせん」の様子を伝え合おう。 「にこにこ」が増えると、心がぽかぽかするね。お家の人が「にこにこ」になると、自分も「にこにこ」になるね。これからもっと「にこにこ」を増やしていきたいな。	△家庭に「にこにこ」が増えると生活がよりよくなることに気付くとともに、「にこにこ」を増やすことができた自分自身の成長にも気付けるようにする。	知③ 思⑤
振り返り	11	○これまでの活動を振り返る。 ◆今までの学習で思ったことやこれから頑張りたいことを伝えよう。 「にこにこ大さくせん」をやって、できるようになったことが増えて嬉しいよ。家族を「にこにこ」にすることができて、ばくも「にこにこ」になったよ。家族の「にこにこ」っていいね。	△保護者からの手紙やこれまでに書きためたカードを見ながら振り返り、今後の生活でもやっていきたいことを、保護者に手紙の返事を書く形で考えられるようにする	態②

重点評価場面（例）

- ・ 知 「にこにこ」を増やすための計画を実行して分かったことを書いたカード等【9・10 時間目】
- ・ 思 家の人の様子や「にこにこ大さくせん」中の活動の様子を記録したカード【7・9 時間目】
- ・ 態 今までの学習を振り返り、思いをまとめたカードや、お家の人への手紙【11 時間目】

※授業改善に向けては、単元における毎時間の子どもの様子やカードなどの見取りを行うことが大切です。

中学年部会



中学年部の取組

目指す子どもの姿

4年 友達のと自分の考えを比べながら、よさや課題を見つけ、
よりよい自分の生き方について考えている。

3年 友達と自分の考えをくらべて、よいところや問題を見つけ、よりよい自分の生き方について考えている。

1. 子どもと共有した生き方探究教育の視点

4年



3年



2. 児童の実態と、「目指す子どもの姿」設定の理由

3年生児童は、学習に対して意欲的に取り組む児童が多い。また、友達と活発に意見を交わしながら学びを深める力をもっており、探究的な学習に対しても主体的に取り組むことができる。2年生時の生活科、「あそんで ためして くふうして」の学習では、自分達が作ったおもちゃを友達に遊んでもらい、もっといいおもちゃが作れるようにルールや仕組みなどについて積極的に意見をもらうことができていた。この意欲を総合的な学習でも生かし、自分達が調べた施設のすてきや課題から、地域と自分のつながりを見つけ地域に愛着を持ち、よりよく人と関われると考え目指す姿を設定した。

4年生は非常に活発で、身の回りの事象に関心の高い児童が多い。3年生時の総合的な学習では一人一人が身近な場所の疑問を見つけるところから始め、友達と考えを交流しながら調査を進め、答えとなる事実に出くわした時には驚きや喜びでいっぱいになり、自分たちの力で新しい気付きを得る楽しさを実感していた。この体験は自ら課題を見つけ仲間と協力して解決する力を育むとともに、地域社会とのつながりを意識するきっかけになった。地域の人が町を大切に守ってきたことに気付いた時、感謝の気持ちと共にこれからは自分達も町を守っていきたい自分も誰かの役に立ちたいという思いが自然と生まれていた。こうしたよさを伸ばすことで、学んだことを現在の学校生活で生かすだけでなく、自分の生き方とつなげて考えることができると考え目指す姿を設定した。

3. 具体的な取り組み

①探究したいテーマや行き先は可能な限り実現。児童が思いを持って探究をすすめられるように3年生は回数や行き先が多くなっても全ての場所でフィールドワークできるよう計画。4年生では鴨川環境問題を発信する際、一人一人が地域に伝えたいことを決めた上でグルーピングを調整。

②ゲストティーチャーから学ぶ活動を重視。3年生では、自主防災の会長から、地域を守るために行っている活動や思いなどを教えていただいた。4年生では、「鴨川を美しくする会」や京都府土木事務所の方に協力をお願いし実際に鴨川で水質や生物の調査活動をさせていただいた。

③PDCAサイクルで体験活動を繰り返す。3年生では、地域のすてきを見つけるために、調べ学習を行い、それを基に施設見学を行ったり、施設の関係者に地域に対する思いや仕事に対する思いなどについてインタビューを行ったりし、施設のすてきを見つけてきた。4年生では今後取り組む単元で地域の高齢者との交流会を計画実行する際は1回ではなく、2回目、3回目に挑戦することで、振り返りから思考を深めて話し合い、次の計画をよりよいものにしていくことをねらう。

④ふりかえりは次のめあてにつなげる。その時間の学びを振り返りうまくいったことやいかなかったこと、新しくやってみようという活動を書き、次のめあてを考えて記入できるようにした。また、キャリア教育の4つの視点を視覚的に認識できるように、視点カード・マークを活用した。

総合的な学習の時間

指導者 京都市立紫明小学校

T1 梅原 啓嗣

T2 橋本 愛弓

1 日 時 令和7年12月5日（金） 第5校時（13:50～14:35）

2 学年・組 第3学年 51名

3 単元名 「ふしぎ発見！紫明すてき調査隊！」

4 単元の目標

校区の探検や地域の方からの話などから、自分たちの校区やそこに暮らす人々のよさについて調べる活動を通して、地域の歴史や伝統、人の思いや願いなどの魅力に気づき、その校区や地域の人たちの魅力を伝えるために何ができるのかを考え、今後も愛着をもって地域を大切にしながらよりよく人と関わっていこうとすることができるようにする。

5 内容と単元の評価規準

【探究課題】地域の魅力や歴史と関わる人々の思いや願い（町づくり）				
目指す子どもの姿	主体的な子の育成に向けて育てたい子どもの資質・能力			
	友達と自分の考えをくらべて、よいところや問題を見つけ、よりよい自分の生き方について考えている。			
単元 の 評 価 規 準	観点 過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む 態度
	発見過程／ 追究過程	地域には、歴史や伝統があることやそこに携わっている人々の思いや願いがあることを知り、受け継がれていくことの大切さやこれから自分たちが創っていくことの大事さや楽しさなどに気付くことができる。	地域の方の話を聞いたり、校区を調べたりして情報を集め、その情報を基に、交流しながら整理・分析を繰り返す行うことで、地域の魅力について考えを深め発信することができる。	地域に対する自分のイメージを捉えなおし、地域の歴史的背景や地域に携わっている人の思いや願いを自分なりに受け止め、地域と自分がどのように関わっていくかをこれからの生活の中で考え、実践しようとする。
	提案過程／ 熟成過程／ 表現過程	① 校区には自分たち校区ならではの様々な魅力がたくさんあるということに気付いている。 ② 校区の魅力について、歴史や関わる人々のことを知るために、インタビューをしたり、情報を集めたりしている。 ③ 校区にある建造物や自然、人々の思いや願いなど、地域の他にはない魅力に気付いている。 ④ 地域や歴史や伝統などが受け継がれていく大切さを理解し、自分も引き継いで地域を良くしていけることがわかった。	① 町のよさを調査して得た情報から課題を設定し、見直しをもっている。 ② 疑問や調べたいことについて様々な方法から選んで情報を収集している。 ③ 調査した結果や地域の魅力をマップなど適切な方法で表している。 ④ 他にはない地域の魅力や自分のお気に入りの場所などを探している。 ⑤ 地域の人や友達のアドバイスを基に、自分の作品の改善点を整理・分析している。 ⑥ 地域の魅力について分かりやすく伝える方法を考	① 友達や地域の人々の話から地域の魅力についての自分の考えを見つめ直している。 ② 地域の魅力を調べる計画や活動を友達と協力して行い、疑問や課題を解決している。 ③ 友達や地域の人々のアドバイスを進んで聞き、さらに良い作品を作ろうとしている。 ④ 地域の活性化を願い、行事やイベントなどに自ら参加するなど、自分のできることを探し、実践しようとしている。

		たのは、地域について調べてきた成果であることに気付いている。 ⑤ 地域の魅力に興味をもってもらうための効果的な内容や言葉、手段の選択の仕方が分かる。	え、自分なりの根拠を基に、写真や言葉で表現している。	
--	--	---	----------------------------	--

6 単元について

【探究課題について】

本学年の児童は、地域の行事や活動に参加する機会がある一方で、日常的に地域の様子に目を向けたり、そこに暮らす人々の思いや願いに気付いたりする機会は少なく、地域に関する知識や理解は十分とは言えない。「紫明のすてきは何だろうか。」と投げかけると、「せせらぎ公園。」と解答する児童がほとんどで、2年生時の生活科の町探検で知ったお店以外の施設には関心のある児童が少なく、地域の行事や取組については全く意見が出なかった。

しかし、児童は学習に対して意欲的で、友達と活発に意見を交わしながら学びを深める力を持っており、探究的な学習に対しても主体的に取り組むことができる。そこで、校区の探検や地域の方々からの話を通して、地域の歴史や伝統、人々の思いに触れ、自分たちのまちの魅力を見つけ出し、それを自分の言葉で伝えようとする活動を通して、地域への愛着や誇りを育てたいと考えた。

また、地域の方々が子どもたちの成長を温かく見守ってくださっていることを実感し、地域の一員としての自覚をもち、今後も地域を大切にしながら人と関わっていこうとする態度を育てたいと考えた。

【主体的な学びに向けて】

○主体的な学びを促す活動の工夫

児童が地域に関心をもち、自ら問いを立てて学びを深めていけるように、単元の導入として校区探検を行い、自分のお気に入りの場所を見つける活動を行った。初めは公園など、日常的に親しんでいる場所に関心が偏る傾向が見られたため、地域に長く住む方々におすすめの場所を紹介していただいたり、実際に案内していただいたりする体験活動を取り入れ、児童の視野を広げるようにした。

その後、児童は興味をもった場所ごとにグループをつくり、実際に現地を訪れて見たり聞いたりしながら、調べたいことを見つけていった。さらに、調べ学習を進める中で、その場所を守っている人や働いている人の思いを知る必要性に気付き、自らインタビューを申し出て再度訪問するなど、学びを深めていった。

これらの体験活動を通して得た気付きや学びを、より多くの人に伝えたいという思いを高め、「すてき広め隊」として地域の魅力を発信する活動へとつなげていくことで、児童が自らの学びに目的意識をもち、主体的に取り組む姿を育てていきたい。

○学びを生き方につなぐ

地域の魅力を探究する活動を通して、児童が自分の住むまちに関心をもち、地域の一員としての自覚をもつことができるようにする。地域の方々との交流やインタビューを通して、地域を支える人々の思いや願い、仕事に対する誇りややりがいに触れることで、「働くこと」や「人の役に立つこと」の意味を実感できるのではないだろうか。

また、「すてき広め隊」として地域の魅力を発信する活動を通して、自分の考えをもち、それを他者に伝える力や、仲間と協力して目標に向かって取り組む力を育てる。これらの学びを通して、児童が自分の生き方や社会との関わり方について考え、「よりよく生きる」ことを見据えたキャリ

アプランニングの視点をもつことができると考える。

この単元目標の達成を通して、意識する生き方探究の視点は「よりよく生きる力」(キャリアプランニング能力)である。将来、どのような場面でも自分の役割を見つけ、他者と協働しながら社会に貢献しようとする態度を育てるために、地域との関わりを通した実践的な学びを大切にしていきたい。

○他教科との関連について

教科名	単元名・教材名	資質・能力のつながり	学習の時期
生活科	「もっともっと町たんけん」	地域の人々と関わる活動を通して、地域により親しみや愛着をもち、適切に接したり、安全に生活したりしようとしている。	2年生時
社会科	「学校のまわりの様子」	身近な地域の様子について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	3年生時
国語科	「引用するとき」	積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。	3年生時
国語科	「仕事のくふう、見つけたよ」	進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。	3年生時
社会科	「商店のはたらき」	地域に見られる販売の仕事について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。	3年生時
道徳科	「仕事のやりがい」	働くことの意義や仕事のやりがいについて考え、進んで働こうとする思いを高めている。	3年生時

7 本時について（47／70時間目）

（1）目標

施設見学や地域の方からの話を基に、自分たちのグループで見つけた地域の人や場所のすてきを友だちと伝え合いながら、地域のすてきについて考え、自分たちと地域の繋がりを考えられるようにする。

（2）展開

○学習活動 ・ 児童の反応	◇支援 *留意点 (生)き方探究の視点
○前時の内容をふりかえり、めあてを確認する。 ●みんなが行った場所にはどんなすてきがあったかな。 ・色々な人が関わっていたよ。 ・代々受け継がれているんだって。	◇これまでのインタビューや見学などを思い出すために、写真を掲示する。
地域のすてきを伝えあい、紫明のよさについて考えよう。	
○インタビューや見学で得た情報を写真・メモ・ワークシートを持って交流する。 ・消防署と防災センターは、関わる人の気持ちが似ているね。 ・やりたいことを仕事にしているんだね。 ・歴史的にすごく有名な場所だったんだね。 ・代々引き継がれているんだね。 ・紫明の人以外もたくさん来られるんだ。 ○児童がそれぞれのグループで交流した情報をふりかえり、紫明のすてきについて考え、見つける。 ●友達の話聞いてすてきだなと思ったことは何ですか。 ・人の命を守る仕事をしているのがかっこいいな。 ・昔からずっと続いているのがすてきだと思いました。 ・お客さんのために色々考えているんだな。 ●みんなのすてきを集めたら、紫明にはどんなよさがあると思いますか。 ・地域の方はみんなのために頑張ってくれている。 ・みんなが安心してらせるようにしてくれているよ。 ・みんなが地域の方のことを考えてくれているね。	*たくさんの児童やグループと交流できるように、グループで活動することにとらわれないようにする。 ◇積極的に自分以外のグループと関わられるように、お店や施設プレートを名札代わりに身に付け、交流する。 ◇板書にそれぞれのグループの施設や関わって下さった地域の方の写真を掲示したり、児童からの出た言葉をカードにまとめたりし、視覚的に情報が整理しやすくなるようする。 生地域の人の思いや願いに気付き、自分達と地域の繋がりから、どのようなことができるのかを考えている。 （キャリアプランニング能力）

○本時をふりかえり、ワークシートに記入する。

●紫明にはたくさんのすてきがあって、温かい地域だね。

地域の人のように誰かのために働くってすごいよね。

みんなはどんなことがしたいと思いましたか。

・このすてきをもっとみんなに広めたい。

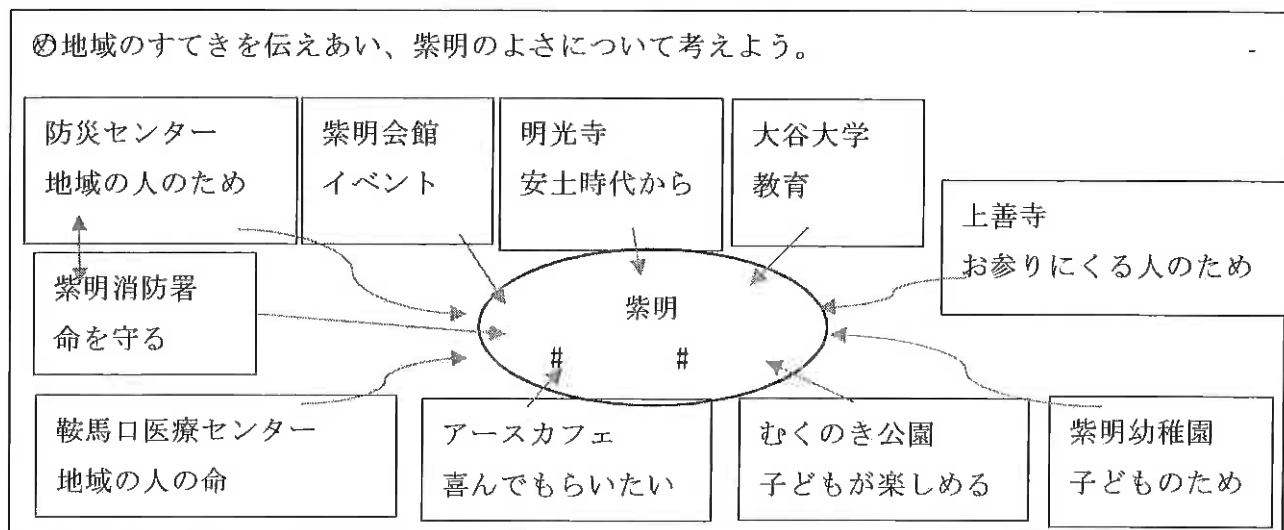
・人のために働く仕事についてみたい。

・お世話になった人に感謝の手紙を書きたい。

(3) 本時の評価

【主①】	自分たちのグループで見つけた地域の人や場所のすてきを進んで友だちと交流し、地域のすてきについて考え、自分たちと地域の繋がりを考えている。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」	
・消防署と防災センターの人の考えて、すごく似ているね。 ・お客さんのためって、自分のグループの他の人のためっていうところと同じだ。 ・紫明にはたくさんのすてきがあったのに気付きました。自分も何か地域のためにできるようなことを探したいと思いました。	

(4) 板書計画



探究の過程	「ふしぎ発見！紫明すてき調査隊！」
発見課題の設定 情報の収集 整理・分析	A わたしたちのまち「紫明のすてき」ってなんだろう？（15H） 自分が考える紫明のすてきはなんだろう。 「紫明のすてき」について身近な人に聞いてみよう。 紫明のまちをよく知っている人にきいてみよう。 せせらぎ公園が たくさん 宇段がた くさん あるよ。 上御霊神社のお 祭り。 地下鉄やバスな どの交通の便。 ご飯屋さんが多 いよ。 もっと他にもわたしたちの「知らないすてき」がありそうだね。
追究課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	B 自分の目で見たり、聞いたりして、「紫明のまちのすてき」を調べよう（15H） どんな方法で調べたいか考えよう。 図書館資料やインターネットでも調べられるよ。 実際に町を歩いたり観察したりしたいな。 ふしぎなこともあるな。昔からずんでいる人に聞いてみたい。 関係のある人にインタビューしてみよう。 紫明・瑞州の名前 紫明会館 御霊神社 明光寺 上善寺 建物の中で大切なものは何だろう。 紫明について色々なことがわかってきたね。「紫明のすてき」を守るためにどんな願いや思いなどをも って活動しているのか知りたいな。
提案課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	C 「紫明すてき調査隊」として紫明を支える人について調べよう（15H） 「紫明のすてき」に関係ある人達は、 どうして関わっているのだろう。 すてきを守る仕事ってなんだろう。 インタビューや施設見学に行っ て詳しく調べよう。 先生 読み聞かせ 育友会 消防団 体振 どんなお仕事をしているのかな。 大変な思いがあるのかもしれない。 人手不足と聞いたよ。 ボランティアってたいへんなんだね。 紫明のまちのために何かできることはないかな。 紫明のまちを守るためにたくさんの努力を見つけたよ。このすてきをみんなに広めたいな。
熟成課題の設定 整理・分析 まとめ・表現 情報の収集 整理・分析	D 「紫明すてき調査隊」プロジェクト「紫明のまちすてき広め隊」（15H） 地域のすてきを伝えあい、紫明のよさこ について考えよう。本時 地域の安全のために、日ごろから訓練をしているんだね。みんな知っているのかな。 お祭りをするに、こんなに良い場所を準備しているんだよ。 「紫明のすてき」を広げる方法を考えよう。 ポスター 新聞 パンフレット リーフレット 「紫明のまちすてき広め隊」としての活動を交流しよう。 PC 紫明の町のすてきがたくさんつまった報告ができると思う。たくさんの人に見てもらいたいな。
表現課題の設定 まとめ・表現 情報の収集	E みんなにとけ「紫明のまちすてき広め隊」（10H） 自分たちが見つけた「紫明のまちのすてき」を全校に広めよう！ 他学年や保護者の方にも聞いてもらいたいな。 紫明を守るためにしたいことができることはないかな。 これまで、教えてくださった地域の方に感謝して、これか ら「紫明のすてき」を守り続けたいな。 学習をふりかえろう。 今まで見つけられなかった「紫明のまちのすてき」がわかったよ。そして「すてき」をたくさん の人に伝えられてうれしな。紫明のまちをもっと好きになったよ。この「すてき」をこれからも大 切に守っていききたいな。

高学年部会



高学年部の取組

目指す子どもの姿

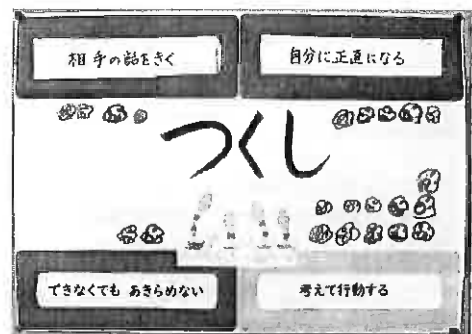
6年 広範な事象を多様な角度から俯瞰してとらえ、学んだことを現在及び未来につなげながら、よりよい自分の生き方について問い続けている。

5年 他者の考えを柔軟に受け止め、互いのよさを生かしながら、よりよい自分の生き方について問い続けている。

1. 子どもと共有した生き方探究教育の視点



5年



2. 児童の実態と、「目指す子どもの姿」設定の理由

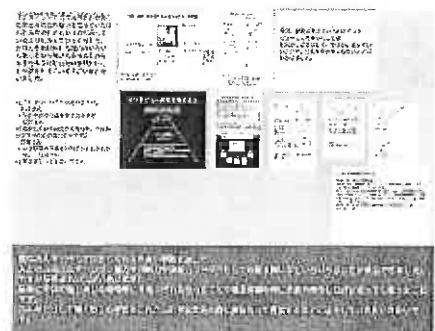
高学年では、自分の意見を主張することはできても、自分たち以外、例えば大人の意見など、多様な角度の考え方を受け入れ、自らの課題を解決する経験はまだ不足している。そのために、多くの他者の考え方に触れ、その考えを柔軟に受け止めることで、「どうしてそうするのか」など自らの問いを見出したり、未来の自分につなげて「自分のより良い生き方」に見通しを持ったりしようとする子どもの姿を目指した。それぞれに考え方は違っても、どの考え方にも価値があり、答えとなるものは必ずしも一つとは限らないことに気づき、それでも友だちと協働して自分なりの答えを粘り強く「さぐり」、問い続ける子どもを育成していきたい。また、そのような探究活動の中で、「自分のより良い生き方」を創造できることのみを終着点とするのではなく、粘り強く問い続ける力「生きる力」の醸成に重きを置いて、上記のように設定した。

3. 具体的な取り組み

5年生では、2つの単元「なぜ働くのか」「幸せな人生とは」を探究する学習を進めてきた。1つ目の単元では、身近な人や地域で働く人にインタビューに行くなどして、それぞれの働く意味を整理・分析しながら自分の考えを深めていった。2つ目の単元では、幸せな人生にするためにはどうすればよいかについて地域の高齢者に手紙で質問するなどして交流を進めている。

また、右の図のように、これまでの活動の様子やふりかえりを1シート化することで、単元を通して学びをふりかえりながら学習を進められるようにした。

6年生では、昨年度の総合的な学習で「近所の人、町内の人、地域の人、紫明学区の人と交流すること、つまり『つながること』が大切だ。」という課題が残った。そこで今年度の総合的な学習は「地域とのつながり」をさらに探究できるよう学習を進めてきた。近所の紫明幼稚園の年長を招待したり、子ども園に出向いたりして交流会を行った。めあてやふり返し、評価改善などを「探究シート」1枚にまとめ、視覚化することで、毎時間のふり返しを書くと同時に、次時のめあても児童自身から表出できるようにした。



総合的な学習の時間指導案

指導者 京都市立紫明小学校 T1 染川 朱里

T2 片山 剛志

1 日 時 令和7年12月5日(金) 第5校時(13:50～14:35)

2 学年・組 第5学年 1組2組(45名)

3 単 元 名 「ともに生きる」

4 単元の目標

地域で暮らす高齢者との交流やイベントの企画・運営などの体験を通して、諸課題やその解決方法について考え、他者とのつながりや協力が課題解決の糸口になることを理解するとともに、友達と共に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら、積極的に地域や社会に参画しようとする態度を養い、現在や未来の自己の生き方について考えることができるようにする。

5 内容と単元の評価規準

【探究課題】地域を通し、共に支え合うことの価値と自己の生き方を結びつけながら、よりよい生き方について考える				
子ども の姿	主体的な子の育成に向けて育てたい子どもの資質・能力			
	他者の考えを柔軟に受け止め、互いのよさを生かしながら、よりよい自分の生き方について問い続けている。			
単元 の 評 価 規 準	観点 過程	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	発見過程／追究過程	① 自分たちが暮らす地域には、たくさん的高齢者が生活していることを知り、それぞれに思いや願いをもって暮らしていることを理解している。 ② 「よりよく生きること」について高齢者から情報を得るために、目的に応じた適切な方法で手紙やインタビュー、アンケート等を実施している。 ③ 役割を分担することで、互いに協力しながら進めていることを理解している。	① 高齢者の思いや願いに寄り添うことで、「ともに生きる社会」について課題を設定し、解決する見通しをもっている。 ② 情報を整理し、「知る・知らせる」「ふれあう」「広める」等、必要な視点を見つけ、解決方法を考えている。	① 様々な立場の人々と自分との関わりや「ともに生きる」とはどういうことかについて自分の考えを見直そうとしている。

提案過程／熟成過程／表現過程		④ 自分自身も地域の一員であることに気付き、地域で暮らす高齢者との交流やイベントを企画することが、地域貢献につながっていることを理解している。 ⑤ 交流会を開くために、必要な情報を適切な方法で調査し、自分の考えを相手や目的に応じて適切な方法でまとめたり表現したりしている。 ⑥ 高齢者と話をしたり、交流したりすることを通して、「よりよい自分の生き方」を見つけようとしている。	③ 高齢者の思いや願いと町の在り方を比較・関連付けて自分の考えをまとめ、友達と交流している。 ④ 「よりよい生き方」について追究したことをもとに、誰かと共に支え、支えられ生きる生き方について課題を設定している。 ⑤ 提案に必要な情報を集め、集めた情報を整理・分析し、分かったことを提案の内容に生かしている。 ⑥ 「よりよい生き方」について考えをまとめ、自分以外に考えを広めていく方法を提案している。	② 高齢者との出会いから得た考えや思いをもとに、自分の良さを生かして社会貢献できる方法を探そうとしている。 ③ 高齢者の思いや願いについて探ったことをもとに、自分の「よりよい生き方」について自分なりの考えをもとうとしている。 ④ 友達やゲスト・ティーチャーと協働して提案をさらにより良いものになっている。 ⑤ 支え、支えられる社会の実現に価値を見出し、自分たちもその一人になろうとしている。
----------------	--	--	---	---

6 単元について

【探究課題について】

これまでに5年生の総合的な学習の時間では、「働くこと」について学習を進めてきた。その中で多くの子どもが、自分の将来やこれからの自分の人生について考えるきっかけをもつようになった。「自分は20年後、どんなことをしているだろう」「どんな人生を送れたら幸せだろうか」そんな漠然とした問いから、この学習をスタートさせた。

この単元では、地域で暮らす高齢者とのつながりや交流を通して、「ともに生きる」ことについて考えを深めていく。「一人では生きていけないこと」「たくさんの人とつながりをもつことの楽しさ」「支え、支えられていることの実感」・・・そのようなことを、人生の大先輩である高齢者の方の話や交流から感じることはできないかと思う。そして、それが自分のこれからの人生や「よりよく生きる」ことへのヒントや答えにつながっていくことに気付いてほしい。

5年生の子どもたちは、与えられた課題だけでなく、自ら疑問に感じたことや興味をもったことに対して追究するなど、意欲的に学ぼうとする姿勢がみられる。また、子どもたちそれぞれが自分の得意なことや強みを生かした係活動も盛んで、まわりの人を楽しませたり、喜ばせたりするためにアイデアを出し合い、仲間と一緒に創り上げることが大好きである。一方で、多様な角度からの考え方を受け入れて自らの課題を解決する経験はまだ不足している。そんな子どもたちにとってこの単元は、手紙のやり取りやインタビュー、交流会などのあたたかい関わりを通して、自分たちも地域の一員として社会に貢献していくことの楽しさやつながりを実感することができるのではないかと考える。

【主体的な学びに向けて】

○主体的な学びを促す活動の工夫

- ・ 地域の高齢者に手紙を送る
- ・ インタビュー、アンケート

【発見過程・追究過程】

- ・ 「幸せな人生」の答えはさまざまであることに気付く
- ・ 地域で暮らす高齢者の思いや願いを知る

- ・ 高齢者との交流会の企画・準備

【提案過程】

- ・ 高齢者を元気づける方法について考える
- ・ 収集した情報から、相手の思いに添った企画の内容を実践、検討する
- ・ 試行錯誤する中で協力することの良さを実感する

- ・ 高齢者との交流会の開催

【熟成過程】

- ・ 高齢者の思いをさらに知る
- ・ 喜んでもらえた経験から、社会貢献の意味や喜びを実感する
- ・ 支え合って生きることを意味について考えを更新する

- ・ 自分の「生き方宣言」

【表現過程】

- ・ つながりを実感する
- ・ 「よりよい生き方」について自分なりの考えをもつ

○学びを生き方につなぐ

発見課題では、「よりよく生きるとはどういうことか」について、地域で暮らす高齢者に手紙でたずねた。すると、想像以上にたくさんの返事を頂き、手紙をもらったうれしさやその内容に感動している子どもがたくさんいた。「どんな人が返事をくれたのかな」「さみしい思いをしている人もいるんだな」など、相手を思いやる発言からは、「人を大切にする力（人間関係形成・社会形成能力）」に意識が向いていることがうかがえた。

追究課題・提案課題・熟成課題では、インタビューや訪問を通して地域で暮らす高齢者のさまざまな思いを知り、人はそれぞれいろいろな思いをもっていることに気付く。そして、そこで得た情報をもとに「相手はどんなことを求めているのか」「どうすれば喜んでもらえるか」を考えながらイベントを企画・運営していく。相手のニーズに合わせて自分ができることを考えること（人間関係形成）、課題を解決するためにアイデアを出し合い話し合うこと（課題対応）、交流会を開くこと（自己理解・よりよく生きる）などを経験しながら、自己の生き方について考えられるようにしたい。

表現課題では、これまでの学習を振り返り「よりよい自分の生き方」について考えをまとめる。支え合って生きていることや人と人とのつながりなど、これまでの経験を自分の生き方につなげ、よりよい人生を送る意欲につなげたい。

この単元の目標の達成を通して、意識する生き方探究教育の視点は、「人を大切にする力（人間

関係形成・社会形成能力)」である。目標である「地域で暮らす高齢者の笑顔を増やす」に向かって自分たちにできることを考え、試行錯誤しながら企画・運営することを通して、地域の人々のあたたかい思いに気づき、最後には「人を大切にする力」に向かいたい。

○他教科との関連について

教科名	単元名・教材名	資質・能力のつながり	学習の時期
国語科	「よりよい学校生活のために」	解決したい課題を見つけ、互いの立場を明確にして、計画的に話し合う。	10月
国語科	『子ども未来科』で何をする	説得力のある提案をするために、自分の立場や提案内容を明確にし、課題や根拠となる事実と自分の考えや意見とを区別して、話を組み立てる。	2～3月
音楽科	ミュージックフェスティバルに向けた取り組み	めあてに向かって取り組み、練習した曲を交流会で発表する。	11月
家庭科	気持ちがつながる家族の時間	団らんタイムを計画し、家族と触れ合う時間の楽しみ方を見つける。	1月
道徳	幸せのヒント 「のび太に学ぼう」	「よりよく生きる」ことについて考える。	4月
道徳	大切な自分らしさ 「マンガ家 手塚治虫」	自分らしく生きることについて考える。	5月
道徳	わが町の誇りと伝統 「和太鼓調べ」	地域で昔から大切にしているものや関わっている人について考える。	11月
道徳	家族の一員として 「家族のために」	家族の幸せを考えて、どんな風に役立っていけるかについて考える。	12月
学級活動	係活動	クラスのみんなを楽しませるために活動する。	通年

7 本時について（12／35時間目）

（1）目標

高齢者との出会いから得た考えや思いをもとに、自分にできる社会貢献の方法を見付けよう
とすることができる。

（2）展開

○学習活動 ・ 児童の反応	◇支援 *留意点 (生)生き方探究の視点
○前時の活動を振り返る。 ・ ○○さんは絵を描くことが趣味だと話していたよ。 ・ ○○さんは仲間とコーラスを楽しんでいるそうだよ。 ・ 最近足の調子が良くなって、思うように運動ができないと話していたね。 ・ 一人で暮らしているからさみしく感じるときもあるみたいだね。 ○めあてを確認する。	◇千歳会に出向いてインタビューしたことや、高齢者のお宅を訪問して分かったことを簡単に交流する。 ◇インタビューの内容を整理したカードを壁面に掲示しておくことで、視覚的に高齢者の情報を一目で分かるようにする。 ◇高齢者それぞれに、抱えている思いや課題があることに気付けるように声をかける。
地域で暮らす高齢者の笑顔を増やすために自分たちに何ができるだろうか。	
○グループでどんなことができそうか出し合う。 ・ 折り紙なら座ってできるね。 ・ コーラスをしていると言っていたから、ミュージックフェスティバルで歌った曲を披露するのはどうだろう。 ・ 歌声喫茶の皆さんなら、一緒に歌いたいかもしれないよ。 ・ 座ってできる体操とかなら足が悪くてもできるんじゃないかな。 ・ ただただ話を聞いたり、一緒にしゃべったりするのもいいかもしれないね。 ・ このアイデアはどこから出てきたの？ ・ 同じアイデアが自分のグループでも出たよ。	◇画用紙に出た意見を書き出したり、整理したりしながら活動できるようにする。 ◇壁面に掲示しているインタビュー資料は、ロイノートで事前に子どもたちに送っておき、それを踏まえて話し合いができるようにする。 ◇自分たちのこれまでの学習や経験、良さを生かして提案内容を考えるように声をかける。 （自分を大切にする力、めあてに向かう力） ◇高齢者の思いを踏まえながら提案内容を考えるように声をかける。（人を大切にする力） *必要であれば、短時間で自由に他のグループのメモを見て回り、質問したり意見交流をしたりする。
○全体でアイデアを出し合い、どんなことができそうか話し合う。 ・ 一緒に折り紙をするのはどうだろう。 ・ 絵を描くのも楽しそう。 ・ ○○さんは、お手紙にも手描きの絵を添えてくれていたから、絵を描くのが好きなんじゃないかなと考えました。	◇「どうしてこの活動を考えたの？」と問い返すことで、高齢者の思いや考えの意図にせまれるようにする。

- ・昔やっていた遊びなら、小学校の頃を懐かしんで楽しんでもらえると思うよ。
- ・高齢者の方ができることだけでなく、私たちが元気になってもらえるような発表をするのもいいね。
- ・ミュージックフェスティバルで演奏した曲を披露したらいいんじゃないかな。
- ・折り紙、ぬり絵、俳句みたいに一緒に楽しめるブースがいくつかあっていいかもしれないね。
- ・どこですか？
- ・高齢者の中には紫明小学校の卒業生もいたから、来てもらったら懐かしんでもらえるかもしれないね。
- ・足が悪い人は来るのが大変そうだよね。
- ・自分たちが千歳会の集まりに出向くことはできないかな。

○振り返り

- ・いろんなアイデアが出た。楽しんでもらえるといいな。
- ・準備をするのが楽しみだ。
- ・高齢者の方が好きな歌や興味のあることをもっと調べないと。

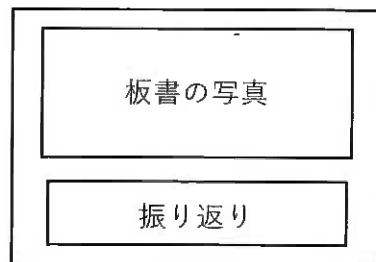
◇「〇〇さんの_____の思いに応えることができそうだね」などと、壁面掲示の高齢者の思いに返すことで、「人を大切にする」ことに意識が向くようにする。

◇高齢者の顔写真の周りに出たアイデアを板書していくことで、思いが詰まった活動のアイデアがたくさん出てきていることを視覚的に感じられるようにする。

⑤「高齢者の方に喜んでもらいたい」と次の行動に向けて意欲をもつ。(人を大切にする力、めあてにむかう力)

◇振り返りはロイロノートで行う。

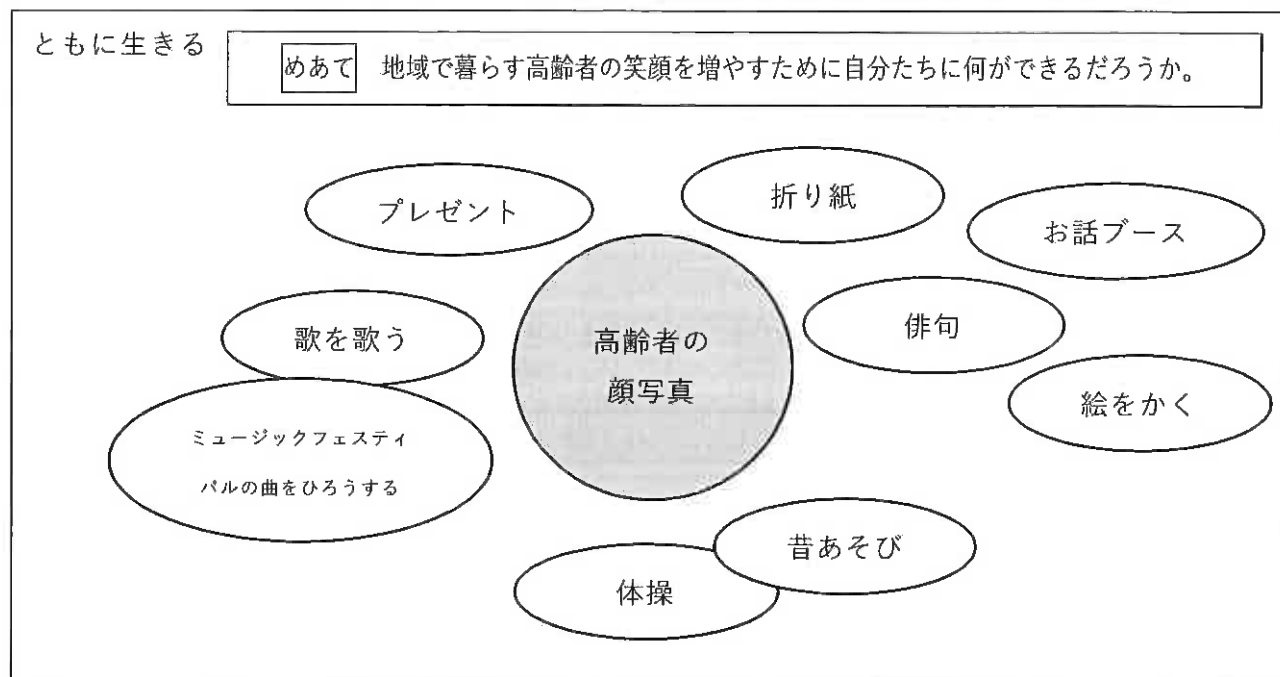
板書の写真を見て、高齢者の思いに触れながらみんなで話し合ったことについて振り返ることができるようにする。



(3) 本時の評価

【主②】	高齢者との出会いから得た考えや思いをもとに、自分の良さを生かして社会貢献できる方法を探そうとしている。
「おおむね満足できる」状況と判断できる「発言・記述」	
・喜ばせるために自分たちができることはたくさんあると感じました。 ・考えたアイデアで高齢者の方が喜んでくれたらいいなと思いました。 ・高齢者の方の思いや状況を踏まえてアイデアを出すのは難しかったけれど、喜んでもらうためには大切なことだと思いました。(交流・発表)	

(4) 板書計画



壁面掲示

____さん ○ 絵が好き ひとり暮らし	○	○	○	○
----------------------------	---	---	---	---

過程	学習の流れ
発見課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	A どうすれば「よりよく生きる」ことができるだろう？ (3H) どんな生き方がしたいのか話し合おう。 夢をかなえられたらいい人生なんじゃない。 毎日楽しく生きることじゃないかな。 いや、好きなことだけできる人生が送れたらよくない。 幸せな人生を送るために大事なことは何だろう。 答えは一つじゃないのかもしれないね。 人生の先輩に聞いてみよう。 敬者のお手紙で聞いてみるのもいいかもしれないね。 夢の実現 好きなこと 楽しむ 「仕事」で探求してきた時、仕事を生きがいにつなげていると聞いていたから、自分にあった仕事を見つけることじゃないかな。高齢者の方は知っていると思うので聞いてみようよ。
追究課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	B 高齢者の方々と関わりたい！知りたい！ (7H) 高齢者の方々と関わっている方に話を聞こう。 誰かの役に立つ 支え合う 先ずは、自分のおじいさん、おばあさんに聞くのがいいね。地域には、家族が遠くにいて一人で暮らしておられる高齢者もいるよ。そうした人の話も聞いてあげてほしいし、きっと大事なことを教えてくれると思うよ。 つながり 挑戦 悔いがないように 今できることを精一杯 高齢者の方に話を聞いてみようよ。 アンケートに答えてもらうのもいいね。 独居老人の方に話を聞こう。 一人暮らしでさみしい思いをしていると手紙にあったね。 気づいたことを話し合おう。 それぞれの「思い」を整理し、分析しよう。 人は一人では生きていけない。誰かの支えがあって生きていくことができるとわかったよ。私達にも地域のおじいさん、おばあさんに喜んでもらえることを企画するなどして、おじいさん、おばあさんを支えることができるかもしれないね。
提案課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	C 私たちが独居高齢者を支えるためにできることは？ (12H) 独居高齢者の方々にもアンケートを取ろう。 体操 自分たちが元気づけられる方法はないかな。 折り紙 4年生でしたフェスティバルをもっとよくすればいいね。 独居高齢者を元気づけるために自分たちにできることを考えよう。(本時) 少し体を動かせるのもいいんじゃない。体育館ですとか。 ミュージックフェスティバルで発表した合奏や合唱を見てもらうのはどうかな。 みんなで歌を歌ったりもできるね。 エアーホッケー 合唱 サイコロトーク 高齢者の方ができることだけでなく、私たちが喜んでもらったり、元気になったりしてもらえる発表をするのもいいと思うよ。学習発表会で発表した合奏や合唱を見てもらうよ。
熟成課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現	D 『ともに いきいき』交流会を開こう (10H) ともに いきいきできる交流会を開こう 支え合う つながり 誰かの役に立つ 会場をどのように設営したらいいか考えないとけないね。 招待状を書こうよ。 直接、渡した方がいいんじゃない。 招待するための工夫 会場の設営 とても喜んでもらったのが嬉しかった。 ゲストティーチャー(柴山さん)も招待しようよ。 招待状 どうすれば高齢者の方々に喜んでもらえるか、たくさん意見を出し合ったのがよかったね。 みんなが喜んでくれて、私達もとても嬉しくなったね。これが支え合って生きる意味が少し分かったような気がしたよ。これからも地域の人とつながり、支えあっていけたらいいね。
表現課題の設定 整理・分析 まとめ・表現	E これからの「よりよい自分の生き方」について考えをまとめよう (3H) 自分の生き方をよりよくするために自分の「生き方宣言」をしよう。 一人では生きていけない。支え、支えられ生きていくことがよい生き方なんだ。 誰かの思いに気づき、答えることが、自分の喜び、生き方になることもあるんだね。 つながり 今できることを精一杯 今回は、自分たちから関わろうとしたことがよかったのではないかな。 人は一人では生きていけないことがわかったよ。好きなことをしたり、夢に向かって努力したりすることも、自分の生き方をよくすることだけれども、それだけではだめだったんだね。支え、支えられること、たくさんの人とつながりを持つことで人生はよりよくなるのだと感じたよ。

育成部会

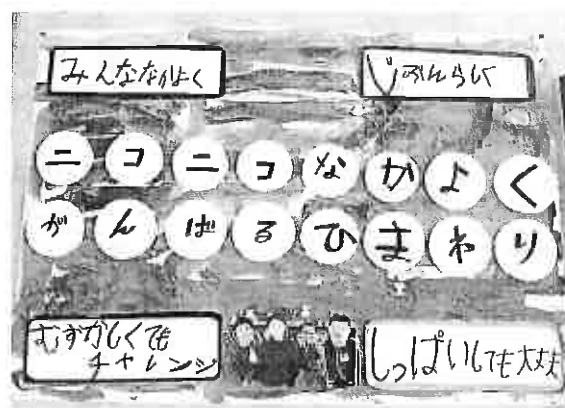


育成部の取組

目指す子どもの姿

ひまわり 周りの人と温かく関わりながら、自分の思いを伝えたり、良さを考えたりして、自分の生活を豊かにしている。

1. 子どもと共有した生き方探究教育の視点



2. 児童の実態と、「目指す子どもの姿」設定の理由

本学級の児童は、人と関わることを好み、自分の考えや気持ちを主張する力を持っている。しかし、感情の起伏や場の安心感の有無によって表現が難しくなることがある。そこで、今の自分を見つめる活動を通して「これが自分なんだ」と気付いたり、今の自分や過去の自分を振り返ったりすることで、自分の良さを実感すると、自信をつけてほしい。また、その自信が「次はこれをしてみたい」「こんな自分になりたい」という意欲や、自分なりの将来のイメージに繋がるようにしたい。自分を理解し、認め、前向きに挑戦しようとする姿勢は、「生きる力」の育成に直結する。このような力を育成していくことで、児童一人ひとりの生活がより豊かで主体的なものとなっていくと考え、このような子ども像を目指す姿として設定した。

3. 具体的な取り組み

児童はこれまでに、養護教諭や妊娠中の教員から赤ちゃんや出産について学び、生まれてくる様子を疑似体験するなどの経験をしている。さらに、近隣の紫明幼稚園の園児達との関わり、自分より年下の存在への関心や思いやりの気持ちも育まれている。この経験を踏まえ、本単元では、小さい頃を振り返る活動を通して、「自分にもこんな時があったんだ」と児童自身が実感できるようにした。

また、自分自身をテーマに「もう一人の自分」を等身大パネルに表現する活動に取り組んでいる。ただ自分を形にするだけではなく、「思いの強さ」「気持ちの変化」などの心の内側にも目を向けている。もう一人の自分をつくることで自分を客観的に見つめなおすことに繋がっている。

振り返り活動では、これまでの経験を年表にしたり、その時感じた気持ちをボール状にして視覚化したりする工夫をした。

生活単元学習指導案

指導者 京都市立紫明小学校 T1 吉田 ねね

T2 布施 大虎

- 1 日 時 令和7年12月5日(金) 第5校時(13:50~14:35)
- 2 学 年 ひまわり学級(6年1名、5年1名、3年1名、2年1名 計4名)
- 3 単元名 大きくなるってことは
- 4 単元の目標

自分の成長の様子を調べたり、振り返ったりする活動を通して、自分や自分を支えてくれた人々について考え、自分が大きくなったことやでできることが増えたことに気付くとともに、色々なことができるようになった自分に自信を持ち、成長への願いを持って意欲的に生活できるようにする。

5 単元の評価基準

	A児(2年)	B児(3年)	C児(5年)	D児(6年)
知識 技能	・自分の好きや苦手を見つけ、理由とともに伝えている。 ・「自分年表」を作り、友達と比べたりして自分らしさを見つけている。	・自分の好きや苦手を見つけ、伝えている。 ・写真やカードを選んだり貼ったりして愛着を持って「自分年表」を作っている。	・自分の好き・苦手を見つけ、理由とともに伝えている。 ・「自分年表」を作り、友達と比べることで自分らしさを見つけている。	・自分の好きや苦手を見、写真の中から選んでいる。 ・写真やカードを選んだり貼ったりして愛着を持って「自分年表」を作っている。
思考 判断 表現	・記憶や写真、インタビューの内容から、自分の素敵ポイントを考え、まとめている。	・記憶や写真、インタビューの内容から、自分の素敵ポイントを考え、書いている。	・記憶や写真、インタビューの内容から、自分の素敵ポイントを考え、まとめている。	・写真や文章から自分の素敵ポイントを選び、書いている。
主体的 に学習 に取り組む 態度	・自分のできるようになったことや成長した点を積極的に見つけ、理由とともに伝えている。 ・教職員や友達とのやり取りを楽しんでいる。	・自分のできるようになったことや素敵ポイントを積極的に見つけ、伝えている。 ・教職員や友達とのやり取りを楽しんでいる。	・自分のできるようになったことや成長した点を積極的に見つけ、理由とともに伝えている。 ・教職員や友達とのやり取りを楽しんでいる。	・自分のできるようになったことや素敵ポイントを積極的に見つけ、伝えている。 ・教職員や友達とのやり取りに心地よさを感じている。

6 児童について

本学級には、2年生1名、3年生1名、5年生1名、6年生1名が在籍している。休み時間には、自分から遊びに誘い一緒に遊んだり、困っている友達がいれば声をかけたりと、積極的にコミュニケーションを取りながら穏やかに過ごしている。また、授業や新しい活動に対して関心が高く、「やってみる！」と意欲を持って学習に向かう姿が見られる。一方で、相手の思いよりも自分の思いを強引に押し通そうとする場面や、友達とのやり取りの中で気持ちの折合いをつけることが難しい場面もある。それぞれの気持ちを受け止めながら、ひまわり学級の中で心地の良い人間関係を作ろうとしているところである。

児童	実態
A児 (情緒)	何事も自分でしたいという気持ちを持ち意欲的に学校生活を送っている。記憶力が良く、朝の会や授業の活動パターンをすぐに把握し、率先して動く姿が見られる。場所や時間、手順のこだわりが強く、やり方やルーティンが崩れることに不安を感じたり腹を立てたりすることがある。また、じっくりと考えるよりも先に、思い立つと体がすぐに動くことから、友達に手が出てしまう場面もある。相手に伝えたいことや分かってほしいことがあれば、まずは言葉で伝えられるよう実践している段階である。
B児 (発達)	友達や大人と関わるのが好きで、自分から声をかけ積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。嬉しい時は喜びを身体全体で表したり、悲しい時には大きい声で泣いたり感情表現が非常に豊かである。また、失敗したらどうしようという気持ちが大きく、自分が難しいと感じる課題に対して、取り掛かることに時間がかかったり、自信を失くしたりしてしまう場面もある。スモールステップでできることから積み上げていくことで安心して活動することができる。
C児 (情緒)	安心できる場所や人間関係の中では、常に情緒が安定していて余裕を持って友達と接することができる。周りをよく見ていて、相手の思いや気持ちを想像して関わる姿が見られる。大勢の集団の中で活動することに苦手意識を持っており、分からないことや自分が嫌だと感じたことがあっても上手く伝えることができず、感情を溜め込んでしまうことがある。ひまわり学級だけでなく、安心して思いを伝えられる友達や教職員を増やしてほしいと考えている。
D児 (発達)	自分の思いを簡単な言葉や身振り手振り、指差しなどで伝えている。人と関わるのが好きで、家族やひまわり学級の友達、学校の教職員に自分から関わりに行く場面が増えている。自分の好きなことと苦手なことがはっきりしていて、嫌な時には「しない。」と活動に参加しないこともある。時間や予定に対し、強い不安を感じたり、腹を立てたりする場面もあるが、「こういう時もある。」と気持ちの折合いをつけられるようになってほしいと考えている。

7 単元について

【探究課題について】

本学級の児童は、日々友達や教職員と温かく関わり合う中で、自分は何が好きで何が苦手なのか、どのような場面でどのような感情になることが多いのかなど、「自分」について少しずつ理解を深め、自己を肯定的に捉えて学校生活を過ごしている。一方で、障害のある児童は、無意識のうちに人からしてもらっていたり、受け身になっていたりする経験も多く、自分の意志を尊重し、自分の選択に自信を持って主体的に動こうとする場面は少ない。本単元では、「自分」に焦点を当て、今までを振り返ってこれまでの自分や今の自分をじっくりと見つめ直すことで、小さい頃から変わらず好きなことや大切にしているものがあること、自分のできることが少しずつ増えていること、自分の困りや短所も含めて愛すべき自分であるということに気づいてほしい。また、自分自身の良さや可能性を実感する中で、これからもまだまだ成長できることにも気づき、「次はこれをしてみたい。」と自分なりの将来のイメージや意欲を持ってほしいと考え、この探究課題を設定した。

【主体的な学びに向けて】

○思いや願いが膨らむ学習を創る

児童はこれまでに、養護教諭や妊娠中の教職員をゲストティーチャーに迎え、赤ちゃんの秘密を探ったり生まれてくる様子を疑似体験したりする活動を行っている。また、紫明幼稚園の園児たちと交流した経験もあり、赤ちゃんや自分より年下の子に対し、関心を持ち、意欲的に関わりたいという思いを持っている。本単元では、小さかった頃の自分を振り返る活動を行うことで、自分にも同じ時期があったことに気が付けるようにする。また、小さい頃の写真やキャリアパスポート、昔使っていた衣服やおもちゃ、家族の話や思いなどに触れる中で、自分の成長には、家族、幼稚園や保育園の先生、学校の先生、友達など沢山の人が関わっていたことにも目を向けられるようにしたい。

また、自分の成長を振り返るだけでなく、友達や家族から見た成長の様子を聞く活動も取り入れている。互いの成長や良さを見つけ伝え合う活動を設定することで、自分では気づいていなかった自分の良さや、心情面での成長や変化に気づき、自己肯定感を高めたり、友達の良さを見つけこれからもよりよく関わろうとしたりする力を育んでいきたい。

○学びを実生活につなぐ（生き方探究教育の視点との関連について）

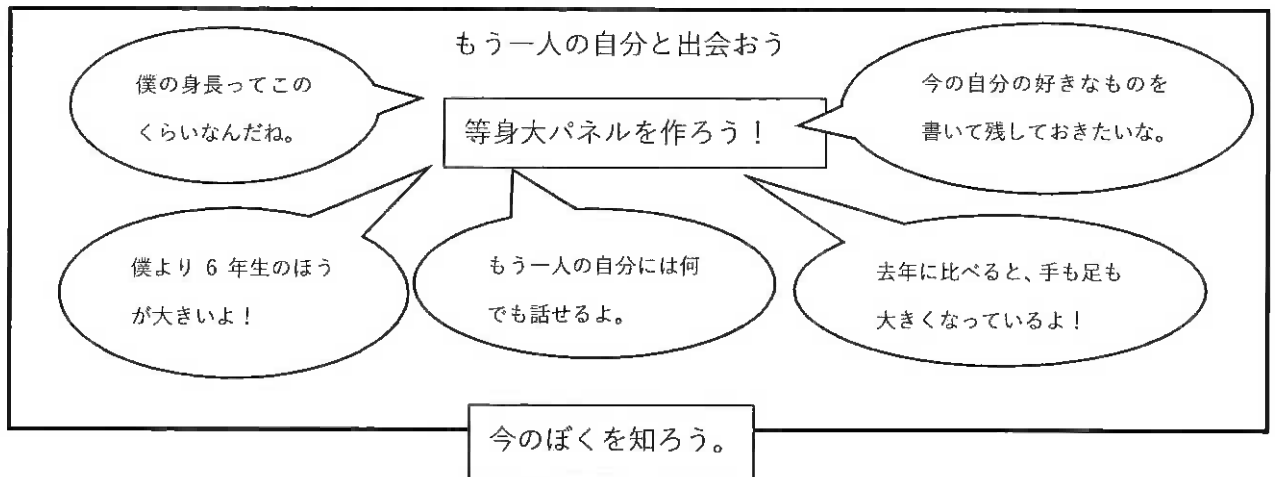
生き方探究教育の視点では、この単元を通して特に「自己理解・自己管理能力」を育んでいきたい。生まれてから今に至るまでの轍を知る活動を通して、児童は自分たちなりに自分自身についての理解を深めていくと考えられる。それらの理解は、児童が日々生活していく中で、不安や怒りを感じた時どうすれば落ち着くことができるのかを考えたり、自分がしたいことを実現するためにはどのような方法が合っているのかを取捨選択したりする際に大いに生かされるのではないかと考える。児童一人一人がよりよく生きていくための土台となるよう活動を進めていきたい。

【各教科との関連について】

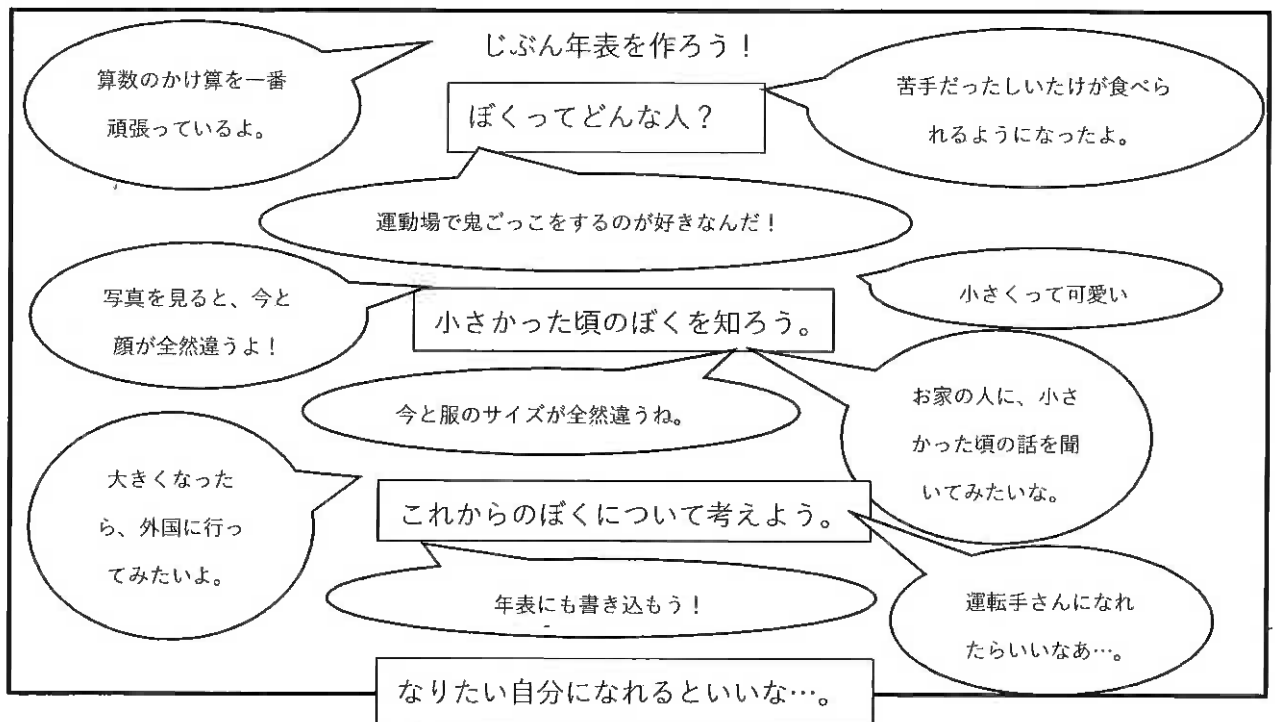
教科名	単元名・教材名	資質・能力のつながり
国語科	・自己紹介をしよう。(話す) ・他己紹介をしよう。(話す・聞く) ・教職員に向けてインタビュー (話す・聞く)	自分を大切にする (自己理解) 人を大切にする (人間形成) 人を大切にする (人間形成)
道徳科	・お月さまとコロ ・およげないりすさん ・生きているから	自分を大切にする (自己理解) 人を大切にする (人間形成) よりよく生きる (生き方探究)
生活単元 学習	・「もう一人の自分」の製作。 ・「すき・にがて」を見つけよう。	めあてにむかう (課題対応) 自分を大切にする (自己理解)

大きくなるっていうことは（21時間）

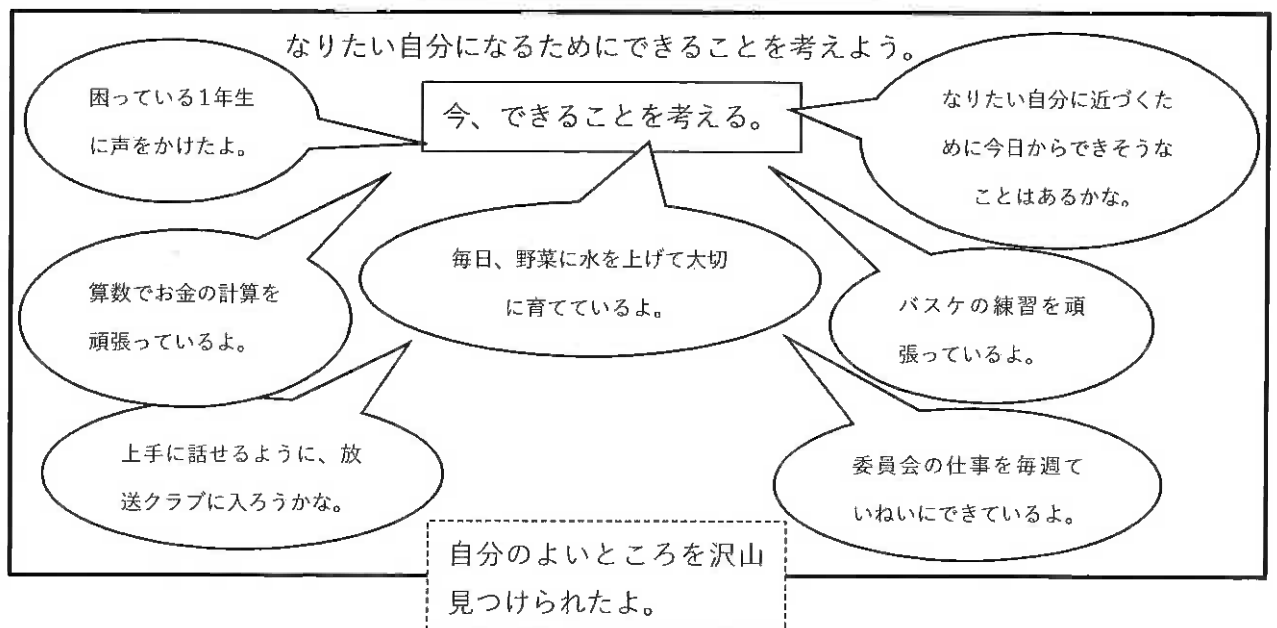
出会う（5時間）



探求・表現する（13時間）



生かす（3時間）



9 指導計画

	時	○学習活動 ◆主な発問 子どもの反応
出 会 う	1	○等身大パネルを作成し、今の自分を客観的に見たり関心を持ったりする。
	2	◆今の自分って、どんな自分？
	3	・去年に比べて、手や足の大きさが大きくなったよ。
	4	・僕の身長って、これくらいなんだ。6年生に比べると、小さいよ。
	5	・もう一人の自分に話しかけてみよう。
探 究 ・ 表 現 す る	6	○今の自分について関心を持ち、自分の好き・苦手や今頑張っていること、できるようになったことについて、具体的に考える。
	7	
	8	◆今、好きなものや頑張っていることは何かな？
	9	・算数のかけ算が、6の段まで言えるようになったよ。
		・去年までは食べられなかったしいたけが食べられるようになったよ。
		にんじんはまだ苦手で食べられないよ。
	10	○生まれたばかりの頃の写真や衣服、使っていたおもちゃや家族の話などをもとに、小さい頃の自分を振り返り、見たことや聞いたことをカードに書いたり伝え合ったりする。
	11	
	12	○集めた情報を基に、自分だけの「自分年表」を作成する。
	13	◆小さい頃の自分って、どんな自分？
	14	・服のサイズが今と全然違うよ。
		・2歳の時から、電車が好きだったんだって。今でも好きだよ。
		・お母さんと一緒によく公園へ行っていたのを覚えているよ。
	15	○作成した自分年表を見ながら自分自身を振り返り、自分の成長やできるようになったことを伝え合う。
	16	
	17	○友達の良いところや成長したと感じるところをカードに書いて伝え合う。
	18	◆小さい頃の自分や今の自分を振り返って、できるようになったことや自分の素敵ポイントを探してみましょう。
生 か す	19	○これから、もっとやってみたいことやこれならできそうと思うことを考えたり伝え合ったりする活動を通して、自分なりに「これからの自分」のイメージを持つ。
	20	
	21	◆なりたい自分や、これからやってみたいことはありますか？
		・これまで水泳を頑張ってきたから、もっと頑張りたいよ。
		・友達に優しくできる6年生になりたい。

重点評価項目

- ・知 「自分の好き苦手やできるようになったことを見つけて表現している素敵カード等」
- ・思 「年表を見ながら自分の成長に気づいている様子や素敵カード等」
- ・態 「今までの学習を振り返り、発見や気づきを表現した振り返りシート等」

10 本時について（15／21時間目）

（1）目標

「誰のことでしょう？」クイズを通して、自分自身の成長や、これまで沢山の人と関わってきたことに気づき、これからの自分について具体的な思いや願いを持つことができるようにする。

（2）本時の展開

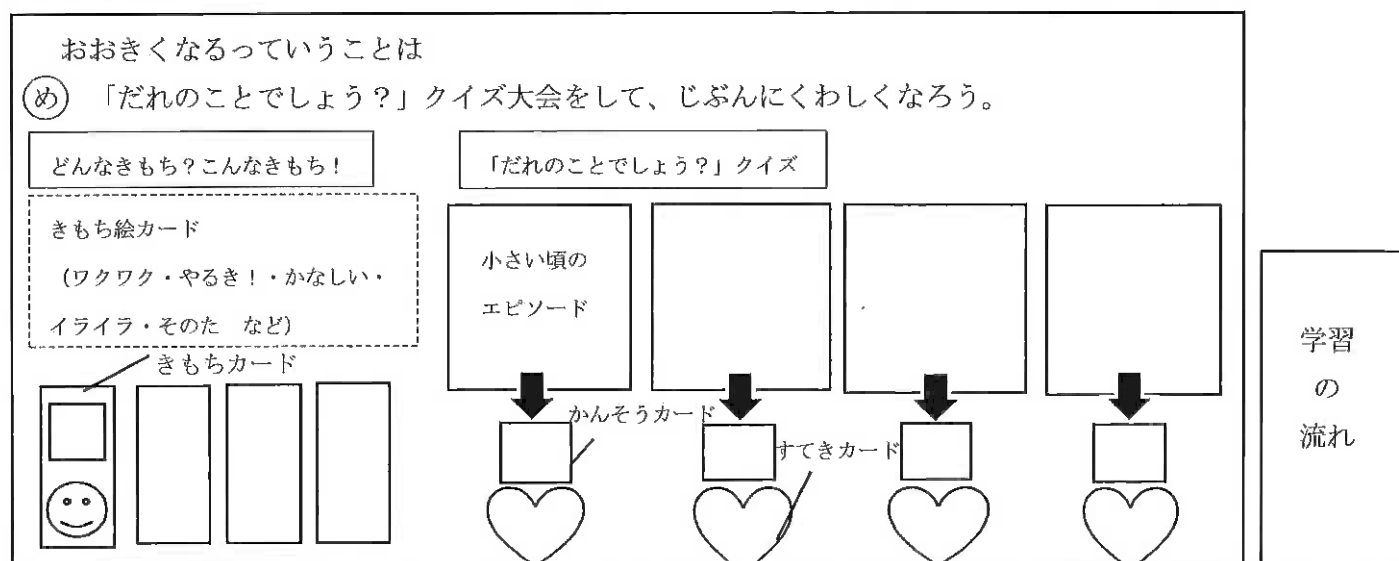
学習活動	○活動内容 ・児童の反応	◇支援 ＊留意点 ③ 生き方探究教育の視点
1. どんなきもち？ こんなきもち！	○気持ちカードを使って、自分の 気持ちを選び、伝え合う。 ・沢山の人がいて緊張するよ。 ・ワクワクするよ。 ・いつもと変わらないよ。	◇様々な表情の絵カードを用意すること で、自分の気持ちに合ったものを選べ るようにする。 ④どんな気持ちであっても否定せず、 色々な気持ちがあって当たり前である ことに気づけるようにする。
2. 前時を振り返 り、本時のめあ てを確認する。	○前時で、小さい頃の自分につい て伝え合ったり、自分の成長に 気づいたりしたことを振り返 る。 ・生まれたばかりの時の身長は、 ○○cmだったよ。 ・2歳の時に言葉を話し始めたん だって。 ・自分をもっと知りたいな…。	◇小さい頃の写真や、すてきカードを自 分年表に溜めていくことで、自分の成 長を視覚的に理解したり、いつでも振 り返ったりできるようにする。
【めあて】「だれのことでしょう？」クイズ大会をして、じぶんにくわしくなろう。		
3. 「誰のことど しょう？」クイズ を行う。	○小さい頃のエピソード（頑張ってい たことや夢中になっていたこと、性 格などについて）を聞き、誰のこと なのかを考える。 ・誰のエピソードなのか。 ・電車が好きだったということは、 ○○さんじゃないかな…。	◇音声や動画を大きい画面に映し出すこと で、全員が関心を持って参加したり、考え を持寄り話し合ったりすることができるよ うにする。 ◇エピソードに関する実物（衣服やおもち ゃ）があれば、実際に見たり触ったりする ことで成長を実感しやすくする。 ⑤クイズでのエピソードや写真には家族や地 域の方、友達などが周りにいたことに着目 することで、自分は一人ではなく沢山の人 と温かく関わりながら成長したことに気づ けるようにする。
4. これから頑張り たいことや、で	○自分年表を振り返りながら、これか らの自分が頑張りたいことやできる ようになりたいこと、やってみたい	◇「もう一人の自分」が持っているかご（自 分の素敵をボールに書いて貯めたもの）が まだ満タンになっていないことに気づくこ

きるようになり たいことを「す てきカード」に 書いて伝えた り、感想を出し 合ったりする。 5. 本時の振り返り	ことなどを「すてきカード」に書 く。 ○友達の話聞いて感想伝え合ったり、参観者からの感想聞きに行ったりする。 ・今も頑張っている算数の割り算をこれからも頑張りたいな。 ・前跳びを30回できるようになりたいよ。 ・今はまだ食べられないけれど、いつかにんじんが食べられるようになりたいよ。 ○「誰のことでしょう？」クイズや参観者とのやり取りを通して、自分について詳しくなれたかどうか振り返る。 ・クイズが楽しかったよ。 ・自分が、三輪車に夢中になっていたなんて知らなかったよ。 ・今日から縄跳びの練習を頑張って、もっと「すてきボール」を貯めたいよ。	とで、自分にはまだまだできることがあることを視覚的に理解できるようにする。 ◇友達や担任だけでなく、参観者からも感想シールをもらうことで、参観者とのやりとりを楽しんだり、これからの自分の成長を温かく応援してくれている人がいることを実感したりできるようにする。 ◇児童だけでなく、参観者からも授業の感想を聞くことで、客観的に本時の学習を振り返えられるようにする。
---	---	---

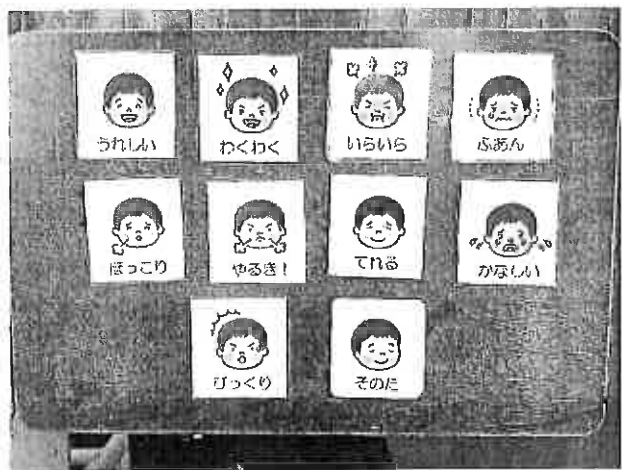
(3) 本時の評価

- ・「誰のことでしょう？」クイズに参加し、誰についてのエピソードなのかを考えたり、友達と話し合って答えを出そうとしたりしていたか。
- ・写真や年表、家族からの話などを頼りに、自分の成長について振り返り、これからの自分について自分に思いや願いを持つことができていたか。
- ・発表の場や感想シールを通して、参加者との関わりを楽しむことができたか。

(4) 板書計画



(5) 学習カード (ワークシート)・教材の工夫など



←きもちカード



←感想シール

友達と感想を言い合いながら感想シールを貼る。
友達からもらった感想をいつでも見返すことができるようにする。



←もうひとりの自分・すてきボックス

今や昔の自分が頑張っていたことや、できるようになったことなどをすてきボックスに貯めていく。自分や周りの人が見つけた全ての「すてきポイント」が今の自分を構成していることを視覚的に理解しやすくする。

終わりに

本校では「ともに ～つながろう 創り上げよう～」の学校教育目標のもと、子ども達・教職員一人一人が生き生きと、安心・安全に過ごすことができる学校づくりを進めています。昨年度からは、教職員で「つながろうプロジェクト（つなプロ）」「創り上げようプロジェクト（つくプロ）」を立ち上げ、各分掌の進捗状況を確認し、振り返り、今後の取組を検討することで、組織的に PDCA サイクルを進め、学校教育目標の達成を目指しております。

研究では今年度の研究テーマを「生き生きと学び、自己の生き方をさぐる子の育成 ～つながり・さぐり・つくる～」とし、特別活動を要として、総合的な学習の時間と生活科で探究的な見方・考え方に重点を置き、学校での学びと自分の将来や自己の実現とのつながりを感じ得できるよう、生き方探究教育の充実を図っています。校内公開授業では、目標に迫る場面や授業の流れが変化した潮目における子どもの姿を話し合い、なぜその子がそう言ったのか、もしくはその子が言わなければどうなっていたのかなど、児童の固有名、具体的な行動・発言が飛び交うような事後検討会を実施しております。

公開授業に参加いただいた皆様には、ぜひご助言やご意見をいただき、授業改善につながるものになればと思います。

最後になりましたが、貴重なご助言とご指導をいただきました齊藤和貴先生、指導助言をいただいた先生方、そしてご多用にもかかわらずご参加いただきました多くの方々へ心よりお礼を申し上げます。

研究同人

石田 淳	安田 小百合	井上 美和	吉田 ねね
布施 大虎	森本 博道	藤井 令子	山崎 加奈
梅原 啓嗣	橋本 愛弓	城 綾子	井土 涼雅
片山 剛志	染川 朱里	佐々木 愛	土井 悠暉
片山 直美	土井 早苗	伊東 佳那子	真壁 眞紀
杉本 歩	塩釜 美也	平野 達也	浅野 絵理
米田 友里恵	栗原 典生	梅垣 智子	石澤 麻里子
エゼル・カイル	山谷 典子	小寺 裕	内藤 聡子
内藤 聡子	谷河 由紀	大北 真紫乃	グリーン美由紀
成川 詩織	松本 加奈		



京都市立紫明小学校

〒603-8162 京都市北区小山東大野町5 5

Tel (075) 451-2156